

第二糧食車

第三荷物

患者足傷者ハ陣中病車ノ前ニ在リテ行進ス縦隊ヲノ  
 識得セシニハ行進中屢生スル三分ノ一ノ増長ヲ算  
 入シタル者ト要訣ヲ採用スハ此隊ハ戦時兵員ノ充足  
 知ルハシト  
 何レノ時ヲ論セス輜重隊ハ決シテ其隊ノ中央ニ置  
 キ以テ行進ヲ遅緩ナラシムルヲナカルハシ  
 縦隊ノ兵力旅團ヨリ多カラサレハ上章ニ記スル如  
 ク行進隊ノ側面ヲ護衛スルニ通常前衛ノミヲ以テ  
 完全ナリトスレバ時アツテ行進ノ苦難ヨリ生スル  
 其隊ノ増長ト一側面ニ敵在ルノ實証或ハ該時ノ景

況等ニヨリ本隊ヲシテ別ニ側衛枝隊ヲ派遣セシメ  
 サルヲ得サルコトアリ  
 此枝隊ハ成ルヘク側道ニ從ヒ本隊ト齊頭ニ行進シ  
 而シテ帝ニ其本隊ト交通ヲ保存スルノミナラス尚前  
 衛ヨリ差遣シタル衛側斥候ト連繫スヘシ且ツ勉メ  
 テ隱蔽ノ所ヨリ前進シ敵ニ発見セラレサル様ニ注  
 意ス且此枝隊ヨリモ亦三名ノ小斥候數個ヲ發遣シ  
 テ搜索セシム其斥候ハ始終其之ヲ保護スル部隊ノ  
 展眸内ニ在ルヘキナリ  
 歩兵三大隊ノ一聯隊 千〇七十五米突  
 騎兵四大隊ノ一聯隊

復伍ヲ以テ行進スル

縱隊

七百四十米突

乘車砲兵一中隊

二百六十米突

騎砲兵一中隊

三百四十米突

歩兵一師團ノ戦闘部全長

(歩兵十二大隊砲兵

四中隊工兵彈藥隊

師團附屬陣中病車

等)

七千〇九十米突

歩兵一師團ノ輸送隊ノ全長

(荷具各種ノ勤務及

聯隊ニ属スル食物

被服糧食等ノ車輛)

二千百六十米突

騎兵一旅團ノ輸送隊ノ全長

(陣中病車食物及荷

具車等)

四百七十米突

側衛枝隊遠ク本隊ヨリ離レル片ハ數騎ヲ之ニ属セ

シメ以テ交通ヲ保全シ及情報ヲ速ニ致達スルニ供

スヘシ

時宜ニ因リ例ハ側道ナキ片カ或ハ其行步特ニ困

難ナルカ若クハ縱隊ノ安全ニ必要トスル片等ニ於

テハ此枝隊ヲシテ左右ノ高點ヲ台位セシメ以テ本

隊ノ通過スルノ后テ其後尾ニ附加セシメ而シテ次  
キノ休憩ノ片其旧位ニ復セシムルヲアリ  
休止衛護ニ在テハ本隊ヨリ其側面ニ分遣哨ヲ派出  
シ其近傍ヲ觀察シ得ヘキ諸點ニ配置ス

#### 第四章

後衛

#### 目的及編組

第六十三 後衛ノ任ハ其警戒職務ニ就テハ縱隊ノ  
後方ヲ監視シ敵兵ノ近追スルヲ扞防スルニアリ  
後衛ハ其他順次風紀ノ責ニ任シ劫掠兵ヲ拘引ミ遲  
後兵ヲ后方ニ止メシメス之ヲシテ追隨セシムルニ

在リ

後衛司令ハ輸送隊司令ト協心シテ車輛ノ距離ヲ短  
縮シ其本隊休憩ノ時ニ非サレハ車輛ヲ停止セシメ  
サル様注意スヘシ

通常後衛ノ編制左ノ如シ

一旅團若シハ一聯隊ニ在テハ

半中隊或ハ一小隊

一大隊ニ在テハ

士官或ハ軍曹ノ指揮

一中隊ニ在テハ

ニ屬スル二分隊

一中隊ニ在テハ

伍長ノ指揮ニ屬スル

一分隊

後衛ハ本隊或ハ輸送隊最尾ノ車輛ヨリ隔ル一二百  
米突ノ所ニ在リ而シテ其内ノ三名ハ之ヲ距ル百米  
突ノ地ニ在テ後衛夫兵トナル

緊要ノ片ニ方テハ後衛長一兵卒ヲ以テ直ニ本隊司  
令官ニ報道ス

休止衛護ニ在テハ後衛ハ右轉回ヲナシ其本隊ノ右  
方ヲ掩護スル為メ濶大ノ地區ヲ監視ス

退却行

第六十四 退却行ニ方テハ後衛ハ本軍ノ背面ヲ掩  
覆シ且ツ保護スルノ任ニシテ其兵員ハ前進行ノ前  
衛ニ異ナルトナレ而シテ其職務ハ單ニ防禦ヲナス

ニ在リ

敵兵遠キ地ニ在テ我兵ヲ追撃スル片ハ後衛ハ其前  
衛ノ為メニ示セル如ク其隊ヲ分派シ尙敵方ニ數名  
ヲ差遣シ以テ敵ノ行進ヲ識認セシム  
若シ之ニ及レテ敵ノ尾撃急トルニ於テハ先ツ之ヲ  
抗拒シ本隊トノ距離ヲ充分ニ保存シ以テ本隊ヲシ  
テ退却ヲ確實ナラシム然レ共此距離ハ過大ニ失シ  
中斷セラル、トナク又敵兵ノ行進ヲ阻遏スヘキ障  
碍物ヲ設築シ或ハ他ノ策ヲ施シ以テ敵兵ノ追逐ヲ  
緩スルトヲ計ルヘシ  
後衛ハ其退却ニ方リテハ決レテ敵ノ利用スヘキ器

械等ヲ残スヘカラス若シ之ヲ運搬シ能ハサル片ハ之ヲ毀損シ復々用ユヘカラザルニ至ラシムヘシ

### 第五章

他兵ト連衡ノ歩兵

#### 通常ノ設備法

第六十五 三種兵ヲ配合シタル軍隊敵ヨリ遠キ地ニ在テ行進スル片ハ勉メテ歩兵騎兵及砲兵ヲシテ各自ニ縦隊ヲ編制セシムヘシ如クスレハ各兵種ヲシテ其慣熟スル速度ヲ保存セシムルヲ以テ進ヲシテ迅速ニシ且ツ疲勞ヲ減殺シ得ヘキヲ以テナリ若シ其時機ニ因リテ三兵種ヲ供合シテ行進セ

シメサルヲ得サル片ハ騎兵及砲兵ハ歩兵隊ノ行進ヲ苦難ナラシムルヲナク疾行ノ兵ヲシテ徐行ノ兵ニ倣ハシムヘキ方法ニ從ヒ其步度ヲ規定スヘシ本隊長ハ地ノ景況ト敵ノ概畧ナル位地ト攻戰或ハ防戰ノ為メノ設備法ノ便宜トニ隨ヒテ行軍ノ順次ヲ規定ス而シテ通常ハ道路ノ廣狹ニ從ヒテ其隊制ヲ畫定スル者ニシテ成ヘク縦隊ヲ短縮ニシ攻撃ニ方リ其展開ヲ易カラシムヘシ各兵種ヲ使用スルト及職務ヲ賦任スルハ其配合比較數ニ依リテ變易スル者ニシテ其特別ノ場合ハ之ヲ確説スルヲ得スト雖モ其通常ノ用ニ供スルモノ

ヲ假定シ置クモ亦便ナルカ如シ  
其一步兵縦隊ニ砲兵ヲ屬セシムル  
其二歩兵師團ニ騎兵一聯隊ヲ屬セシムル

砲隊ノ屬シタル步兵縦隊

第六十六 一二ノ砲兵中隊歩兵ト共ニ行進スル片  
ハ本隊ノ先頭ナル歩兵大隊若クハ其聯隊ノ后方ニ  
在ルヘシ

前衛ノ兵員稍衆多(聯隊以上)ナレハ之ニ通常一二ノ  
砲兵中隊ヲ附加シ前衛首部中先頭大隊ノ后ニ在テ  
行進セシム

特別ノ時機アリテ且ツ地形モ亦砲兵ヲ使用スルニ

便ナル片ノミ前衛前兵ニ砲兵ノ部隊ヲ附加ス然ル  
片ハ其砲隊ノ任ハ適宜ノ地位ニ在テ其先頭ノ大隊  
交戦シテ敵兵ノ攻進ヲ抑制防止スル片之ヲ保支ス  
ルニ在リ

前衛ニ於テハ其抵抗スルモノ強大ナル片及ヒ敵ノ  
兵力ヲ全ク露出セシムルノ目的アル片等砲兵ヲ使  
用ス故ニ其損失損々タル孤立彼羅頓ノ如キニ向テ  
砲火ヲ用ユル勿カレ而シテ寡少ノ敵兵ニ非スシテ  
露營或ハ運動スル縦隊ノ近傍ニ着到スル片ハ砲隊  
ハ遲疑スルヲナク直ニ發砲スヘシ斯ノ如キ片ハ其  
之ヲ攻撃スルヲ殊ニ意表ニ出ルニ應シテ敵兵ヲシ

テ紛擾錯乱ヲ發生セシムルノ度モ亦從テ大ナル者トス然ルキ歩兵戰ニ與リテ著大ノ効ヲ奏シ得ヘキモノナリトス

後衛ニ使用スル砲兵ハ本隊ノ退線ヲ庇護スヘキ歩兵枝隊ノ接護ヲ受ケ現地要害ノ諸点ヲ逐次ニ利用シ敵ヲシテ我ニ近逐セシメサルヲ勉ム

騎兵一聯隊ト共ニ行進スル歩兵師團

第六十七 騎兵ハ常ニ尖兵及前兵ヲ派出スル者ニシテ其行進ノ法ハ騎兵陣中要務演習書ニ記載シタル者ニ從フヘシ而シテ尚縱隊諸部隊ノ交通ヲ保持スルニ任ス

此時ニ於テハ前衛前兵ノ編制孱弱ナルヲ以テ其防禦カモ亦堅強ナラサルニ由リ通常前衛首部ヨリ分派シタル援隊ヲ以テ之ヲ救護ス其援隊ハ騎兵ノ后方五百乃至六百米突ニ在テ行進ス此援隊ハ專ラ歩兵ヲ主トシテ編制スルト雖トモ現地ノ形状ト其時機トニ依リ他兵種ノ枝隊ヲモ附加シ就中之ニ工兵小隊ヲ附加シ之ヲシテ先頭ニ在テ行進セシム

前衛ノ騎兵隊ハ捜兵ヲ分派シ本軍ト齊頭ノ所ニ至ルマテ其側面ノ前方ヲ搜索セシム

平原ノ地ニ在テハ前衛ニ用ユル騎兵ノ比較ハ成ルヘ

ク著大ナラシメ以テ遠大ノ距離ヲ搜索セシム  
森林多キカ或ハ極メテ峻難ナル地ニシテ行進易カ  
ラサル片ハ之ニ反シテ歩兵隊ヲ以テ前衛專任ノ兵  
トシ前兵ハ歩兵之ヲ勤メ騎兵ノ近ツキ得ヘカラサ  
ル諸点アラハ衛側斥候ヲ派出ス若シ夫レ狹隘通過  
ノ如キニ當リ騎兵ヲシテ前衛主任ノ兵タラシメハ  
攻撃ヲ受ケシ片墮走シテ歩兵及砲兵ノ隊伍ヲ紛乱  
セシメ其施術ヲ妨害スルニ至ルヘシ  
前衛ヲ編合スル諸兵種ノ部隊ハ本軍司令官ノ撰定  
スル一士官ノ指揮ニ屬ス若シ此士官ノ命アラサル  
片ハ前衛中ニ在テ最モ上級ノ者其指揮ヲ掌ル

前衛司令ハ通常其首部ト共ニ行進ス然レ共其發生  
スヘキ諸種ノ事變ヲ最モ速ニ知得シ且ツ遷延ニ流  
レテハ其奏効ノ機ヲ失スヘキ處分ヲ速ニ舉行セン  
トスル片ハ前兵援隊ノ所ニ赴クコトアリ  
本軍ハ自余ノ師團兵ヨリ成リ其後衛ニ任スヘキ騎  
兵一小隊ヲ除キ他ノ騎兵大隊常ニ前頭ニアリ此配  
布ハ一ニハ其平行道路ヲ進行スル他諸縱隊ノ交通  
ヲ保存シ一ニハ前衛トノ連絡ヲ容易ニシ且ツ前衛  
ヨリ派出スル衛側斥候ヲ保護スルノ目的ナリ然レ  
モ隱蔽若クハ切斷ノ地ニ在テ騎兵ヲ利便ニ使用シ  
能ハサル片ハ此騎兵ヲ縱隊ノ後尾ニ配置ス



退軍ノ片後衛ニ騎兵完全ノ一聯隊ヲ附加スルヲ要スルヲアリ然ルトキハ其騎兵ノ任ハ若シ敵兵ノ屢現出シテ我ニ薄ルニ方リ之カ側面ヲ衝突シテ紛擾セシムルト及砲兵ヲ保護スルニ在リ此ノ如キ片ハ砲兵ハ極メテ動作自由ナルヲ要ス

第三編

偵察勤務實地演習

偵察勤務ニ含有スル者

其一 斥候

其二 尋常偵察

其三 特別偵察

其四 攻撃偵察

斥候ノ勤務ハ前哨及行軍ノ勤務ト密附シ相須テ離ル可カラザルモノナルカ故ニ前章諸演習ノ部中既ニ之カ解説ヲ示セリ而シテ此演習課目内ニハ特別及攻撃偵察ノ活用教習ヲ施行スルヲナシ是其特別

偵察 十八百三十二年ノ陣中軌典ニ審説シタル特別  
 偵察ノ目的ハ現今ニ至テハ多クハ此編ニ掲ク  
 ル尋常偵察ヲ以テ施行スルヲ得ヘシ其特別ナ  
 ル語義ハ特種ノ知識ヲ以テ施行スル者ニ宛ツ  
 者ハ特種ノ知識ヲ要スル耳ナラス特科士官ノ任  
 在ル者ニテ其之ヲ舉行スル時ニ當テハ歩兵ハ唯  
 ニ守衛タルニ外ナラス攻撃偵察ハ一般ノ事業ニ屬  
 スルヲ以テ獨リ首長司令官ノ下命スルモノトス  
 故ニ實地演習ノ第三編ハ唯尋常偵察ノ教誨ニ過キ  
 スシテ又其施行中ニ在テモ其行フ所ノ者屢前ノ二  
 編ト共ニ為シ得ヘキナリ譬ハ前哨ノ實地演習ヲ行  
 ハンニハ前哨預備隊或ハ本隊ハ其第一線ヨリ派出  
 スル斥候勤務ノ外更ニ尋常偵察ヲ差遣スルヲ要ス

ルカ如シ

偵察勤務ノ諸教習ニ於テハ其休止ノ時ニハ毎ニ休  
 止衛護ノ法ヲ執ルヘシ

小隊演習

小隊實地演習ヲ別テ三條トス

第一條 孤立小隊ヲ以テ行フ

第二條 二個ノ小隊相對峙スル者

第三條 夜間偵察勤務

第一條

小隊長ハ其部下ヲ發途セシムル前ニ先ツ計畫シ行  
 フヘキ目的ヲ説明シ兵卒ヲシテ行進中其地ノ諸點

ヲ觀察シ及敵在ルヲ認證スヘキ徵候ヲ探索スルノ  
 法ヲ會得セシム  
 小隊長ハ警戒勤務ノ諸則ヲ活用シテ小隊ヲ行進セ  
 シメ其地形ノ嶮難ナルモノアレハ新古兵卒混合ノ  
 小斥候ヲ縱隊ノ前面或ハ側面ニ派出シ其先後ニ在  
 ルニ從ヒテ小隊ニ會合スヘキ地位ヲ指示ス  
 此各斥候ハ道路、河流、狹隘、森林、高地、平原等ヲ偵察シ  
 其搜索終レハ指定セラレタル一點ニ來リ報示スヘ  
 キノ命ヲ受ク  
 村落偵察ノ最初ノ教習ニ在テハ小隊長ハ部下ヲ其  
 入口ニ止ラシメ數個ノ斥候ヲ差遣シ之ニ命スルニ

各自殊別ノ職務ヲ以テス即チ行軍教習ニ示セル如  
 ク村落内要重ナル地點ヲ偵知スルヲ土民ニ就テ其  
 人口及各種資物ノ景況ヲ探知スルヲ其村落ニ通ス  
 ル道路ヲ知得スルヲ近隣地ノ名稱及ヒ其遠近ヲ認  
 得スルヲ等ナリ  
 鐵道ノ偵察ニ就テノ最初ノ教習ハ之ヲ能クスレハ  
 外部ノ線路ニ從ヒ發車場ノ位地、通路、線面、工造ノ  
 結構、函道、築道等ヲ認知シ及鐵道ノ破壞シ易キ地點  
 ヲ認見スルヲ以テ足レリトス

第二條

二個ノ小隊相對峙シ大尉ノ統轄ヲ受ケ該隊長各其

司令ヲ掌ル

甲小隊ハ小哨ヲ設備シ他乙小隊ニ於テ僅カニ方向ノミヲ概知シタル地位ニ步哨ヲ配布ス乙小隊ハ偵察勤務ヲ活用シ其地ノ形状及攻守共ニ得ル功益等ヲ研究シ甲小隊ノ位地ヲ認定スルト及<sub>レ</sub>其步哨ノ警戒ヲ脅カストヲ勉ムヘシ  
兩小隊ヲ殊別ノ道路ヨリ行進セシムルヲ得ヘシ然ル片ハ各小隊ハ互ニ斥候ノ手段ヲ以テ敵兵ノ前進スル方向其兵員ノ多少及諸枝隊ノ大小ヲ認定スルヲ勉ムヘシ  
第二條ノ教習ニ在テハ最初ニハ總テ戰爭ニ擬シタ

ル舉動ヲ禁シ且ツ兵卒ニ命シテ成ルヘク隱匿シ敵兵ヨリ若干ノ距離ニ在ラシムヘシ其極メテ兵員寡少ナル枝隊若クハ衆敵ヲ防拒スルニ甚タ不利ナル陣地ヲ自領スレ枝隊ニ在テハ宜ク速カニ退クヘシ且ツ總テ一方ヲ追躡スル者ハ其退却スル兵隊ノ方向ヲ遠望スルヲ以テ足レリトスヘシ  
兵卒此演習ニ熟練シタル片ハ二斥候ノ會遇ヨリ閃戦スルヲ得ヘシ然ル片ハ為メニ定ラレタル諸則ニ循フ

第三條

夜間偵察勤務ヲ行フ

最初ノ教習ヲ容易ナラシメン為メ小隊ヲ晝間經過  
セシ土地ニ誘導ス

### 中隊演習

中隊偵察勤務ノ活用ニハ大隊長ノ命令トシテ下セ  
シ課目ニ從ヒ大尉之カ指揮ヲ司ル  
大隊長ノ命令ハ任務上ノ精覈ナル目的及敵ノ位地、  
動靜ニ關スル思想ヲ知ラシメ且ツ發途ノ時刻、執ル  
ヘキ通路及偵察ノ時間ヲ指定スルモノナリ  
大隊長ハ報告狀ノ書或ニ付テノ教諭ヲ與、又時宜ニ  
由リ畧圖ヲ附加スヘキ尺ハ其梯尺ヲモ指定ス  
大尉ハ大隊長ノ指定スル課目ニ基テ其設備ヲ為シ

之ヲ特別職務ニ任スヘキ士官軍曹ニ傳致シ尚各人  
ニ就テ自己ノ命令ヲ下附ス

中隊實地演習ヲ別テ三條トス

第一條 孤立中隊ヲ以テ行フ

第二條 二中隊對峙ス

第三條 夜間偵察勤務

### 第一條

大尉ハ行軍勤務ニ規定セシ如ク前衛側兵及後衛ノ  
掩護ヲ以テ其隊ヲ行進セシム  
其偵知スヘキ地ニ達シテハ防禦ニ容易ナル點ニシ  
テ成ルヘク彼ヨリ展眸セラレス我ヨリ瞰望スヘキ

地ニ其本隊ヲ預備トナシテ之ヲ配置ス而シテ搜索  
勤務ニ任スル部隊勢ト退避セサルヲ得サル片等ハ  
此本隊ハ則チ抗拒ノ中軸ニ任スル者タルヲ部下ニ  
説明シ且ツ親カラ人負ヲ決定スル枝隊ノ保護ヲ以  
テ偵察スヘキ方向ニ赴クヘント雖モ其預備隊トノ交  
通ヲ絶ヘス保存スルニ注意スヘシ  
僅少ノ時間ヲ以テ數多ノ地形ヲ搜索スルニハ大尉  
ハ士官若クハ銳敏ナル軍曹ノ指揮スル斥候等ノ各  
相異ナル道路ヨリ概定ノ方向ニ差遣シ以テ親カラ  
赴キ能ハサル諸點ニ至ラシムルヲアリ此枝分スル  
偵察已ニ卒レハ其隊ハ中隊ノ本隊ニ合スル者ト

ス  
地形稍々廣大ナルモ亦同法ヲ用ヒ然ル片ハ本隊斥  
候ヲ保護スル為メ防禦ニ適切ナル諸點ヲ漸次ニ占  
守シ或ハ之ヲ能スレハ行進ヲ中止スルヲナク搜索  
ヲ行フヲアリ

第二條

二中隊ヲ對峙セシメテ小隊演習第二條ニ示セル者  
ヲ復習ス此時ニ在テハ大隊長其演習ヲ統轄ス  
各中隊ニ相異ナル任務ヲ帶ハシメ相會遇セシムル  
ヲアリ然ル片ハ各中隊ハ能ク其受クル所ノ教諭及  
命令ヲ遵奉スヘシ

第三條

夜間ニ在テ偵察勤務ノ活用  
最初ノ教習ヲ容易ナラシメン為メ中隊ヲ晝間既ニ  
行步セシ地ニ誘導ス

大隊演習

此演習ハ中隊演習ノ諸條ニ記示セル諸教習ヲ復行  
スル者ニシテ其戦闘アルニ方テハ大佐若クハ中佐  
ヲ以テ審判官ノ職ヲ帶ハシム  
夜間ノ教習ニ方テハ其特異ノ艱難アルカ為メ又偶  
發スヘキ諸事變或ハ騷乱ヲ防ク為メ諸部隊ノ長々  
ル者其位階ヲ問ハス各々其部下ヲシテ總テ大ニ警

戒セシメ且ツ自カラ警戒ヲ嚴ニスヘシ

實地演習基本定規ノ解説

第一章

偵察勤務ノ目的

第六十八 偵察ノ勤務ハ專ハラ騎兵ヲ以テ施行セシムル者ナリト雖、氏時宜ニ由リ步兵ノミヲ使用スルヲ緊要トスルコトアリ又屢歩兵ヲ以テ騎兵ノ偵察ヲ接護ス

偵察ハ敵兵ノ位地、其動靜、其地ノ物資及戰地ノ地理等ニ関スル一点或ハ數点ヲ發見或ハ調査スルノ目的ナリ而シテ此勤務ノ含有スル者左ノ如シ

其一 斥候勤務則前哨及前衛ノ章ニ細説シタル



者

其二 偵察勤務

此勤務ニ三種アリ

尋常偵察

特別偵察

攻撃偵察

此三種ノ偵察ニ就テハ曩ニ演述シタル如ク此解説中ニテハ只尋常偵察ノ一ヲ説クノミ  
偵察ニ因テ得ル諸情報ハ戰場中他ノ方法ヲ以テ取得セシ所ノ情報ト比考スヘキモノニシテ其情報トハ即<sub>チ</sub>旅客因虜逃亡人間諜等ノ告報ナリトス此各種ノ情報ハ綿密ニ檢照スヘシ而シテ其諸情報ハ通常皆參謀官ノ許ニ聚収スヘキモノトス

第二章

尋常偵察ノ目的

第六十九 尋常偵察ノ目的左ノ如シ

- 其一 敵ノ占據スル地位ヲ審ラカニ探究シ且ツ成ルヘク各地点ニ於テ其兵員其位置ノ形状其防禦ノ結構及ヒ之ニ近迹スル難易術策等ヲ偵知スルニ在リ
- 其二 敵兵行軍或ハ動作ノ準備ヲ為サ、ルカ又運動中ニ在ラサルカヲ觀察シ敵ノ靜止ニ當テハ成ルヘク敵ニ接近シテ視察スヘシ
- 其三 地ノ形状攻撃防守或ハ退却ニ生スヘキ難易若クハ障碍ノ有無且ツ通路及ヒ其地ノ物資等ヲ研

究スルニ在リ

偵察隊ハ將官命シテ之ヲ遣發スル者ニテ斥候隊ノ  
跋渉セシ範圍外ヲ搜索ス其兵員編合ハ其責任ノ目  
的其土地ノ景況其赴クヘキ距離及ヒ其露出ヲ秘ス  
ヘキカ否等ニ由テ規定スル者トス

偵察ハ必要ナルト認ルニ應シテ屢々施行スヘキ者ニ  
シテ敵兵ノ近傍ニ在ラハ最モ然リトス然ル片ハ其  
通路ヲ常ニ變換スヘシ

偵察隊ノ司令ハ毎ニ確實ノ示諭ヲ受ケ其差遣ノ主旨  
ヲ能ク解了セシ後ニ非レハ上途スルヲナシ且ツ帶  
フル所ノ命令ノ施為ヲシテ得テ容易ナラシムヘキ

諸情報ヲ集聚スヘシ

嚮導ヲ使用スルヲ要スル片ハ其地形ヲ全ク諸知シ  
タル者ヲ精撰ス是發途前ニ方リ行進スヘキ地點ヲ  
確切ニ指定スルヲ須ヒサル為メナリ

各偵察隊ハ自己ノ安寧ヲ保全セン為メ其現員ニ從  
ヒ前衛後衛及ヒ側兵等ヲ派出ス而シテ各隊司令ハ  
行進中其地ノ全部及ヒ其瑣細ノ部ヲモ檢査シ要害

ノ地殊ニ退却ニ方リ利用スヘキ諸點ヲ偵知ス  
勉メテ廣大ナル土地ヲ跋渉セントスルカ又ハ敵ヲ  
シテ其踪跟ヲ量知セシメザラントスル片ハ發行セ  
シ道路ヨリ復ルヲ忌避スルヲ屢々コレアリ

偵察隊司令其任務ノ目的ヲ秘匿スルモ益ナシト思  
惟スル片ハ之ヲ已レノ次キ司令ノ權ヲ有スル士官  
ニ傳知シ且ツ其他ノ者ニモ通知スルヲ得ヘシ斯ノ  
如クシテ各人ニ其動作ノ趣旨ヲ識得セシメ共同任  
務ヲシテ利益アラシムルヲ計ルヘシ

觀察スヘキ細目

第七十 偵察隊ノ長專ラ注意スヘキ物ノ細目左ノ  
如シ

道路 嶮易ノ景狀、傾斜通過シ得ヘキ路上ノ廣狹、生  
籬或ハ溝渠アル縁邊、道路ノ直達或ハ曲折、道  
路ノ凹凸、通行スル州郡、河川、都府、村落、

鐵道

隧道、鑿開道、築堆道、行通點、路線ノ數、其景狀、及  
線間離隔ノ調査、停車場、上車場、轉車針、溜水所、  
電線、石炭ノ貯蓄機械車、及列車ノ數、總テ車輛  
種類

流水

各種兵ニ適應スル行通點、其廣狹、淺深兩岸ノ  
種質及高低、橋梁、渡舟場、或ハ淺瀬ノ位置（沙泥  
ノ地ニ在テハ通常淺瀬ハ其河川曲肱ノ所ノ  
下流ニ在テ其位置ハ大抵河川ニ達スル道路  
ノ其對岸ニ且ルモノヨリ之ヲ知ルヲ得ヘシ）  
淺瀬ノ方向廣狹、其河底ノ種質、其深サハ砲兵  
ニハ六十五珊知米突步兵ニハ一米突（急流ハ

十冊知 騎兵ニハ一米穴二十ヲ超スヘカラス

米穴 流水ノ兩岸ニ沿テ家屋或ハ村落其地ニ得ヘ

キ渡舟其他ノ船舶及諸材料ノ多寡  
溝渠 廣狹、行通点、水堰、噴水、口、引舟道、景状及其廣

堤 種類、高低、厚薄  
狹隘 其長短、廣狹、道路ノ良否、高地及出口ノ景状、通

路ノ開達シ及梗塞スルノ方法  
森林 其廣袤、通路ニ對スル位置、通貫スル交通路、鹿

柴ヲ以テ要害ヲ設クル便否、荆棘及空地ヲ利  
用スル方法、其近傍ニ在ル村落或ハ布陣シ得

ヘキノ地位

高地 其位置、高低、種質、傾斜、其頂巔ニ達シ、或ハ之ヲ  
超踰スルノ手段、防禦及野營ノ地位

平原 其廣袤、遠望スル村落、名称及其負數、土地及耕  
作物ノ種質、樹叢、牆壁、水流或ハ沼澤、廣ク且ツ

深キ隍、凹道、兵隊ノ運動ニ妨クヘキ障礙  
住民地、其位置、及其大小、兵隊ノ舍營、食糧及保育、其他

必用各種ノ物資、其得ヘキ運送手段、屯舍シ得  
ヘキ旅舍、巨大ノ家屋、寺院、墓地等ノ景状及ヒ

是等ニ防禦法ヲ設クルノ手段  
偵察隊ノ司令ハ職務上切要ナル諸情報ヲ得ルニ其

時機ヲ怠失スルヲナグ總テ路上ニ會遇スル者ニハ  
綿密ニ之ニ訊問シ且ツ村落内ニ在テハ區長豪族等  
ニ推問スル耳ナラス尚少年幼童ニ就テ尋問スヘシ  
蓋シ少年幼童ナル者ハ自カラ守ル謹慎ナラス其見  
聞タル諸件ハ反復説明シ毫モ忌憚スルヲナキヲ  
以テナリ  
土民不逞ノ意アリテ已ムヲ得サレハ偵察司令ハ之  
ニ料金ヲ課スルカ或ハ其人ヲ拘ヘテ質トスヘキヲ  
以テ之ヲ脅喝スヘシ  
又司令ハ郵便局或ハ土民ノ住宅ニ於テ收護シタル  
新聞紙電報及書簡ヲ聚束シ其專要ナル部ハ之ノ反

譯セシメ若クハ解説セシメテ自カラ知得シ且ツ電  
線ハ之カ為メニ受ケシ指示ニ従ヒ其施用ヲ保全シ  
若クハ停止ス

總テ上章ニ記載シタル諸細目ハ偵察施行中ニ於テ  
悉皆檢察シ得ヘキニアラサルヲ以テ其司令ハ任務  
ノ目的ニ最モ關係スル者或ハ之ヲ為スノ指示ヲ受  
ケタル部分ノミ專ラ其細目ノ研究ニ從事スヘキナ  
リ

敵ト會遇

第七十一偵察隊司令ハ好テ戦闘ヲ閑クヘカラス其  
任務ハ情報ヲ採収シテ之ヲ報道スルニ在リ故ニ自

已ノ功名ヲ企望スルガ為メ其目的ヲ謬ルナキヲ  
要ス  
偵察隊敵ニ會遇セシ片ハ善ク之ヲ檢察シ其敵兵小  
枝隊ナレハ誘ハレテ其伏兵ニ陥ルヲ避ク殊ニ之  
ヲ捕護スルヲカムヘシ  
若シ敵兵停止スレハ偵察隊ハ森林ノ翳蔭セル高地  
若クハ敵兵ニ視察セラル、トナク近傍ノ地ヲ展望  
シ得ヘキ他ノ地點ヲ占メ敵兵ノ編合及其人員ヲ認  
定スルヲ求ムヘシ且ツ何レノ時ニ在テモ敵ノ警戒  
哨所ノ位地之ニ違スル道路及敵ノ警戒ノ方法ヲ研  
究ス可シ

敵兵退却スルニ方テハ勉メテ其身ヲ潛匿シ之ヲ追  
躡スヘシ  
敵兵我本軍ニ向ヒ快速ニ進ミ來ル片ハ偵察隊司令  
ハ其攻勢動作ヲ蹇滯スルヲ要スル片ニシテ其現兵  
之ニ應スルニ足レバ毫モ遲疑スルヲナク開戦スヘ  
シ此時ニ於テハ司令ハ傳報者ヲ發遣シ尙之ヲ要ス  
レハ茅屋或ハ堆藁ニ放火シ若クハ其他預定ノ記号  
ヲ以テ敵兵ノ來襲及我兵ノ退却ヲ報知スヘシ

報告

第七十二 勤務間送遣スル報告ハ成ルヘク筆記ヲ  
以テシ其書法ハ簡約ニシテ明瞭ニ事實ヲ顯示シ決

シテ其事ヲ輕重スルナキヲ要ス  
報告狀ヲ製スル者ハ親カラ目撃セシ事件ト唯傳聞  
ニ係リテ實否ヲ究認シ得サリシ事件トヲ判然區別  
スヘシ  
其報告必ス送達ヲ要スル者ニシテ攘奪セラル、ノ  
恐レアル片ハ二通或ハ三通トシ各其通路ヲ異ニシ  
之ヲ傳送ス又屢書中ノ事件ヲ傳報者ニ口述シ且ッ之  
ヲシテ其名宛ノ者ニ同伴ニ因リ差遣シタル傳報者  
ノ員數ヲ知ラシムルヲアリ然レ共決シテ其寫シヲ  
報告ニ添ハサル者トス  
其書式ノ体裁ハ此演習書ニ附加スルA式ノ雛形ニ

循フヘシ  
筆記ノ報告ヲ送達シ能ハサル片ハ口演ヲ以テ之ヲ  
傳送ス然ル片ハ其之ヲ送ル者ハ必ス傳報者ニ反復  
吐露セシメ以テ善ク了解セシメ而シテ時宜ニ因リ  
堆問セラル、ニ方リ完全ノ辨解ヲ演述シ得ルヲ確  
實ナラシム  
報告書ヲ携持スル者ハ之ヲシテ敵兵ノ掌握ニ歸セ  
シメンヨリハ寧口之ヲ扯裂スルヲ良トス  
偵察既ニ終レハ其報告狀ニ記載スヘキ者ハ左ノ如  
シ  
其一 差任ノ目的、其隊ノ編合、人員、發程及歸還ノ日

限及其時刻、通行セシ道路及行進順次  
其二 避遇セシ車變或ハ据撫セシ新報

式報

紙幅三百五十三密理米

午前午後	何時何分	何時何分	何處	何處
	何分	何分	何處	何處

長二百七密理米

此紙ハ表面裏面共ニ縦横ノ経界ナリ

書簡袋

紙幅四百十四密理米

常速急歩	速度	花押	何時何分	何時何分	何宛	何宛
			何分	何分	何宛	何宛

長百十密理米

某殿

於某地

書簡袋ハ使ハ者ニ返ス

此正方ノ一辺ハ各一冊知米突ニシテ則梯尺

二万分一ノ二百メートルニ同シ

此紙ハ厚質ナルヲ選ミ二折ニシテ書簡

袋ニ入ルヘシ

差立人并ニ名宛人姓名位階職務等ヲ記ス

午前午後ノ称ヲ用ヒ日限時刻分時等ヲ記

シ決シテ昼後或ハ夜ノ字ヲ用ヒス

時宜ニ因リ使用セシ地圖ヲ添フヘシ

速度ノ所ハ用元歩度ヲ

存シ他ハ塗抹ス

書簡袋ハ護謨布キタル

ヘシ

交通哨

第七十三 總テ偵察ハ之ヲ派遣セシ本隊司令官ニ



其謀シ得タル諸情報ヲ速ニ送致スルト其命令示諭  
ヲ速ニ領受スルヲ以テ其任務ノ最大要件トス之カ  
為メ兵員稍多數ナル歩兵偵察隊ニハ其交通ニ任ス  
ヘキ所ノ若干ノ騎兵ヲ附加スルヲ要ス  
此騎兵ノ責任職務ノ一ハ載セテ騎兵陣中要務實地  
演習ノ書中ニ在リ

### 第三章

他兵ト連衝ノ歩兵

第七十四 通常平地ノ偵察ハ獨リ騎兵ヲ以テ之ニ  
任セシメ其丘山森林ノ地ニ在テハ歩兵ヲ用テ之ニ  
騎兵ヲ附加シ急報ヲ傳致セシム然レモ諸種混合地

ヲ通過スル片ノ如キハ步騎兩兵種ヲ供用シ騎兵ヲ  
平地ニ在ラシメ歩兵ノ退却ヲ援護セシメ歩兵ヲ狹  
隘或ハ瞰臨ノ地ニ台據セシメ騎兵ノ退却ヲ確實ナ  
ラシム  
歩兵ト騎兵ト連合スル偵察隊ハ最大ノ抗抵力ヲ保  
有スルヲ得且ツ其搜索ノ範圍ヲ擴張スルヲ得ヘシ  
而シテ砲兵ヲ附加スル者ハ其彈著遠大ナルト其勢  
力ノ強剛ナルトニ由テ動作手段ヲ一層増加スルニ  
過キス  
各兵種同シテ偵察職務ニ任スル片ハ騎兵ハ遠隔  
ノ地ヲ搜索スル為メ其地之ニ適スレハ常ニ先頭ニ

在テ行進ス歩兵ハ極メテ后方ニ在テ最モ防禦ニ適  
 當スル地位ヲ逐次ニ占守ス然レモ退却ニ方テハ此  
 順次全ク相反シ歩兵ハ縦隊ノ先頭トナル  
 歩兵枝隊ト共ニ分任スル偵察騎兵ノ迅速ヲ障害セ  
 サル為メ馬車ヲ以テ歩兵ヲ送致ス其馬車ハ該地ニ  
 於テ徵収スヘキ者ニシテ宜シク巨大ナル者ヲ撰ム  
 ヘシ且ツ諸兵卒ハ銃器及背囊ヲ放脱セサルヤ否ニ  
 注意スヘシ  
 砲兵ハ各兵種ノ援兵タルノミナラス偵察ニ在テ敵  
 兵ノ占據スルト思惟スル森林村落等ニ侵入スル  
 ナク遠距離ヨリ之ヲ搜射スルヲ得ヘシ而シテ縦隊

中砲兵ノ位地ハ偵察司令ノ意見ニ由リ規定スル所  
 ニシテ其任務歩兵ノ抗抵力ヲ補助スヘキカ若クハ  
 騎兵ニ隨ヒ其前進ノ運動ヲ補助スヘキカニ從テ同  
 シカラス

第四編

舍營及露營實地演習

舍營

歩兵ノ舍營ヲ設クルハ戰時ニ於テハ勉メテ屢施ス  
ヘキ者ト雖氏平時ノ實地教習ニ在リテハ土民ニ苦  
難ヲ負ハシムルヲ以テ之ヲ施行スル甚タ難シトス  
然リト雖氏中隊ヨリ逐次ニ大隊、聯隊ヲ以テ施行シ  
得ヘキ件若干アリ即搭營隊ノ任ヲ帶フヘキ士官下  
士ノ盡スヘキ職務舍營ノ部署、給養軍曹ノ任務、一般  
ノ集合所或ハ各隊集合點ノ撰定、風紀衛兵ノ勤務、舍  
營内ニ在リテ整肅ヲ維持スルノ方法等是ナリ

大運動ノ為メノ集合及内地旅行等ハ此演習ヲ充分  
施行スルノ時機ヲ得ル者トス  
平時ノ舎営ニ在テモ舎営司令官時トシテ警報ノ合  
圖ヲ為スヲ得ヘシ然ル片ハ総テ土民ヲ妨害スル事  
ヲ避ケ唯其兵隊ニ関スル設備法ヲ施行スルヲ以テ  
足レリースヘシ

露營

露營設置ノ實地教習及之ニ関スル勤務ハ先ツ中隊  
ヨリシ逐次ニ大隊、聯隊ヲ以テ施行スル者ニシテ其  
司令タル士官ハ適宜ノ地位ヲ偵知シタル後チ其隊  
ヲシテ露營ニ係ル各種ノ配備法ヲ執ラシムヘシ

露營演習ヲ行フキハ前衛側兵後衛ヲ以テ往復共ニ  
其隊ヲ守護シ露營設置ノ間ハ前哨ニ依リ其隊ヲ掩護  
セシメ以テ警戒勤務ヲ施行スヘシ

諸隊此設置ノ細目ニ熟シタル片ハ軍團司令官ノ命  
令ニ従ヒ終日若クハ二十四時間露營ヲ布キ以テ演  
習ヲ完全ス

露營司令官ハ兵卒ヲシテ迅速且ツ整正ニ備ヘテ執  
ラシムニ慣習セシムル為メ適宜ノ時警報ノ合圖ヲ  
為ス

實地演習基本定規ノ解説

第一章

定説

舍營 露營 野營 搭營隊

第七十五 兵隊屯營ヲ為サハシテ占在スル處ノ住民地ノ全部ヲ稱シテ舍營ト云ヒ全ク大氣中ニ在ルカ或ハ急造ノ掩屏若クハ小幕内ニ概暫時間滯留スル所ヲ露營ト云ヒ其大幕内若クハ厩内ニ在テ多少ノ時日屯宿スル地ヲ稱シテ野營ト云フ  
兵隊ハ此諸種ノ場合ニ在テ第二陣線ニ在ラサルカ若クハ敵ヨリ大ニ隔絶セサル片ハ毎ニ前哨ヲ以テ

掩護スヘシ

敵ノ近傍ニ於テ第一陣線ニ在ル兵隊ハ(二日行程以  
内)常ニ露営セシハアラズ是時ニ於テハ舎営ハ禁  
制タルヘシ  
前哨ニ預備隊ヲ配置セザルハ本隊現員ニ從ヒ其  
兵員ヲ定メタル建制部隊ヲ備ヘ之ヲシテ斷工ス兵  
器ヲ執ルノ準備ヲナサシム  
舎営露営若クハ野営ニ在テハ最モ上級ノ將校又同  
級ニ在テハ古參ノ者其司令ヲ掌ル  
舎営露営或ハ野営ヲ準備スルニ任スル群衆ヲ称シテ  
搭営隊ト云フ

一 聯隊ノ搭営隊ハ副官一名、下副官一名、各中隊ヨリ  
給養軍曹一名及兵卒四名ヲ出シテ之ヲ編合ス師團  
ニ在テハ參謀部ノ一士官各種聯隊ノ搭営隊ヲ指揮  
ス而シテ之ヨリ兵員寡少ノ隊ニ在テハ一士官ヲシ  
テ此任務ヲ負ハシム  
敵地若クハ敵兵ノ占據スル地ニ在テハ前衛ハ搭営  
隊ノ安寧ヲモ保全スルニ任ス

第二章

舎営

諸種ノ舎営

第七十六 舎営ヲ分テ二種トス

其一 敵兵ト對スルノ距離遠大ニシテ集合スルノ猶豫アリ且ツ前進シテ戰鬥陣地ニ至ルニ常ニ一ノ故障ナキ片等ニ用ユル者ヲ尋常舍營ト謂フ

其二 敵ノ近傍ニ在ルカ若クハ時機ニ由リ集中陣地ヲ執ラサル可カラサル片ニ在テ通常短少ノ時間屯在スル者ヲ狹縮舍營ト謂フ

尋常舍營ニ在テハ一竈毎ニ(人家ノ平均三人ヨリ五人ニ至ル)兵卒二名ヨリ六名ヲ宿セシムヲ得ヘシ狹縮舍營ニ在テハ住民寡少ノ地ト雖トモ數旅團若クハ數師團ヲモ屯宿セシムルヲ得ヘシ何トナレハ斯ノ如キ時ニ在テハ兵卒ヲシテ掩屏シテ卧スル

ニ必要トスル居所ヲ得セシムルヲ以テ足レリトスレハナリ

### 舍營ノ設置

第七十七 舍營設置ノ準備ヲ為サンガ為メ各隊其搭營隊ヲ先ツ發遣セシム

搭營隊ノ長ハ其地ヲ粗偵知シタル後チ該地ノ官吏ニ照會シ其屯宿スヘキ建制部隊ノ兵員ニ比較シ速カニ各隊ノ屯領スヘキ廣狹區界ヲ定ムヘシ  
家屋ヲ分賦スルヲハ給養軍曹ノ為ス所タリ  
給養軍曹ハ宿スヘキ人馬ノ總數并ニ其屬スル所ノ部隊ノ名称ヲ門戸ニ明書ス而シテ士官ハ其姓名ヲ

記シ成ルヘク旅店ニ在テ兵卒ト混合セシメス又別  
ニ一旅店ヲ備ヘテ士官ノ會餐所トナシ之ヲ要スル  
片ハ會集所ト為スヘシ  
又四達ノ地及本道ノ隅角ヘ左ノ示告ヲ標掲ス  
其一 隊長或ハ舍營諸司令官タル將官ノ宿所  
其二 風紀衛兵  
其三 街衢或ハ一地區ニ宿屯スル部隊  
其四 集合所及分配所  
兵隊ヲ屯宿セシムルニハ殊ニ旅館倉庫制作所、豪農  
家、城郭等ヲ利用シ成ルヘク毎ニ建制ノ部隊ヲ配置  
シ以テ勤務ノ監視ト集合ノ迅速トニ便ナラシムヘ

シ  
他兵隊ノ既ニ屯宿セシ地ニ代リテ舍營ヲナス片ハ  
搭營隊ノ長ハ其交代スル所ノ兵隊ノ司令官ヨリ各  
種ノ守則ヲ領受スヘシ  
諸兵隊ハ舍營外ニ屯聚シ何等ノ理因アルモ其準備  
ノ措置全ク整理スルマテハ舍營ニ入ルナク搭營  
隊ト雖トモ雜役兵ノ外ハ其舍營遠隔ナラサレハ本  
隊ニ復歸ス而シテ司令官ヨリ入舍ノ合圖ヲ為ス片  
ハ給養軍曹其中隊ヲ誘致シ舍營ニ宿セシム此宿舍  
ヲナスノ間前哨未タ設ケサル片ハ前衛ヲ以テ之ヲ  
守護セシム



列外士官ハ其隊舎營ノ中央ニシテ成ルヘク交通ノ  
 大路若クハ認得シ易キ他ノ地点ニ在テ命令ノ送付  
 領受及其傳達ヲ便ニス而シテ將官ノ宿所ニハ晝間  
 ハ司令旗若クハ認見シ得ヘキ記標ヲ以テ之ヲ表シ  
 夜間ハ火氣ヲ以テ之ヲ照明ス  
 陣中病車ハ病院若クハ之ナキ片ハ寺院學校等ニ之  
 ヲ設ケ其場所ハ晝間ハ陣中病車區別ノ旗ヲ以テシ  
 夜間ハ預定ノ火色ヲ以テ之ヲ表ス而シテ傷者病者  
 ヲ療養スル為メ必要ナル諸品ハ其地ニ於テ徵發シ  
 テ之ヲ備フヘシ

宿營前ノ命令

第七十八 舎營ニ宿次スル前ノ命令ハ各旅團ニ在  
 テハ將官親シク大佐ニ傳ヘ聯隊ニ在テハ大佐ヨリ  
 諸上長官大尉諸副官及ヒ諸下副官等ヲ環列セシメ  
 其命令ヲ下付テ諸曹長ハ所屬大尉ノ後方ニ在ルヘ  
 シ  
 命令ノ要旨ハ服スヘキ勤務分配ノ品類時刻場所  
 之ニ用ユヘキ雜役兵發程及ヒ舎營内外ノ勤務并  
 整肅ヲ維持スルニ關スル配備ヲ知ラシムルニ在  
 リ  
 此時警報ニ方リ赴クヘキ諸隊一般ノ集合所ヲ指示  
 ス此集合所ハ時機ニ當テ抗拒スルニ耐ヘキモノヲ

撰定ス其他必ス諸方ニ便利ナル道路ヲ備ヘ諸隊ヲ  
シテ容易ニ且ツ快速ニ之ニ會集シ得セシムヘシ而  
シテ尋常ノ總集合モ亦常ニ爰ニ於テス  
其他中隊ハ各其集合所ヲ設定シ諸兵ヲシテ常ニ之  
ヲ知ラシメ夜間タリト雖モ第一号報ニ方リ各自ニ  
來會スルヲ得セシム此地点ハ則チ各中隊一部ノ集  
合所タリ  
日直ノ副官及ヒ下副官ハ毎ニ建制部隊ヲ以テスル  
勤務ヲ命ス各大尉ハ其士官下士ニ命令ヲ下付シ其  
解説ヲ加フ曹長ハ勤務ニ任スヘキ建制部隊ト兵卒  
トヲ指定ス

日直ノ上長官ハ諸衛兵ヲ集聚シ遲滞ナク之ヲ各種  
ノ哨所ニ派遣ス

風紀衛兵

第七十九 風紀軍紀及ヒ靜肅ヲ維持セシカ為メ風  
紀衛兵ヲ設ケ聯隊ニ在テハ通常士官ノ指揮スル小  
隊ヲ以テシ大隊ニ在テハ軍曹ノ指揮スル半小隊ヲ  
以テス  
風紀衛兵ハ大ナル家屋若クハ舍管中央ノ所ニ設備  
シ其派遣スル所ノ哨兵ハ銃前及ヒ大佐ノ居所其近  
傍ニアル所此ニ出ス  
又同シク一兵卒ヲ以テ鐘樓若クハ高厦ニ布置シ敵

兵ノ近接ヲ報セシメ或ハ前哨及び鄰隊ノ記号ヲ視  
察セシム  
荷物直着到スレハ之ヲ風紀衛兵ニ送致ス風紀衛兵  
ハ之ヲシテ通行ヲ妨碍セシムサル様ニ車陣ヲ作り  
且ツ其監視ノ責ニ任ス  
囚人、預テ所定ノ地ニシテ其監視ニ任スル風紀衛  
兵ニ最モ近接シタル所ニ於テ之ヲ禁錮ス其囚人ヲ  
憲兵ニ交付シ能ハサル片之ヲ護衛スルモ亦風紀衛  
兵ノ任トス而シテ行進中ハ時宜ニ由リ囚人ヲ擊縛  
シテ特別ノ警衛シ着到ノ片ニ至テ交代ノ風紀衛兵  
ニ交代ス

号音ヲ使用スルノ許可アル片ハ風紀衛兵ニ於テ之  
ヲ為シ且ツ風紀衛兵ハ朝起歸營兵隊一般集合ノ片  
及敬禮ヲ表スル片等ハ兵器ヲ執ル者トス其敬禮ヲ  
表スル片モ舍営司令官ヨリ別ニ命令ヲ與ヘサル片  
ハ号音ヲ用エヘカラス  
大佐ノ宿所風紀衛兵ヨリ甚々隔離スル片ハ其最モ  
近キ中隊軍旗ノ守衛ニ任シ一分隊ヲ分遣シテ衛兵  
一名出サシム  
舍営司令官ハ整肅ヲ維持スル為メ要スル巡察ヲ規  
定ス

舍営内ノ勤務

第八十 内務書ニ載スル尋常規則ノ此演習書ノ諸  
 則ト矛盾セサル者ハ悉ク採用スルヲ得ヘシ  
 陣中ニ在テハ日直勤務ヲ以テ週番ノ勤務ニ換フ  
 舍営ニ次スルヤ直ニ各隊ハ其現員ノ多寡ニ隨ヒ士  
 官或ハ軍曹ヲ派遣シテ舍営司令官ニ直隸セシメ而シテ  
 何レノ片ニ於テモ警報ノ合圖アルヤ直チニ往テ其  
 命令ヲ受ケシム  
 其交通ヲ容易ニシ、通路、橋梁ヲ修理シ陣ノ前地ヲ清  
 掃シ本營、倉庫、陣中病車ノ所在ヲ表スル標柱、標記ヲ  
 設クル等ニ関スル處分ヲ施スハ舍営司令官ノ管ス  
 ル所タリ又各地ノ出口ニ標記ヲ設ケ近隣舍営ノ名

称及、其方向ヲ揭示ス  
 敵ノ逃傍ニ在テ若シ騎兵ノミヲ以テ其隊ヲ掩覆ス  
 ル片ハ障礙物ヲ以テ其脅迫セラルヘキ方向ノ入口  
 ヲ梗塞ス、シ譬、ハ物品ヲ載積シタル車輛ヲ道  
 路ニ横仆シ樹木ヲ左右ヨリ伐倒スル等ハ臨時防禦  
 法ヲ設クル容易ナル施為ト謂フヘシ  
 又敵ニ最近ノ家屋ヲ以テ防禦用トシ之ニ特ニ哨處  
 ヲ設ク敵襲ヲ保支スルニ供スヘシ又舍営司令官ハ  
 諸所ノ出口若クハ唯敵方ノ交通路ノミヲ警衛スヘ  
 キヤ否ヤヲ裁定ス  
 舍営前地ノ觀察ノ為メニハ監視哨所ヲ交通線上及

遠望シ得ル諸点ニ配置ス  
舎營ニ在テハ兵卒ノ自由多キヲ以テ士官軍曹等ハ  
監視ヲ嚴ニシ被服兵器取扱ヒ彈藥預備糧食ノ保存  
并清潔ヲ守ラシムルヲ等ニ注意スヘシ  
總テ部隊ノ長ハ其司令スル部下ノ靜謐軍紀及其品  
行上ノ責ニ任シ一人トシテ免許書ヲク舎營ノ區域  
ヨリ外出スルヲナク歸營喇以後半時ニハ必ス諸兵  
ヲシテ所定ノ宿舍ニ復歸セシム  
小隊ノ士官軍曹ハ其配下兵卒ノ宿舍ヲ巡視ス  
諸兵隊ノ集合ヲ容易ニスルト其士民ノ離反ニ備フ  
ル為メ兵卒ヲシテ成ルヘク二階下ニ寓セシムヘシ

兵卒ハ宿舍ニ在テハ寐臺庖厨燈火及冬日ニハ煖爐  
ヲ用ユルヲ得ルモノナリ而シテ敵地ニ在テハ食糧  
ハ成ルヘク土民ヨリ給セシメ舎營司令官ハ其品類  
及分量ヲ確定シ并ニ此件ニ就テ下シタル命令ヲ村  
長ニ通知ス  
舎主ト兵卒ノ間ハ良善ノ和親ヲ保持スルヲ勉メサ  
ルヘカラス故ニ不法ノ要求ヲナスモノアラハ舎營  
司令官之ヲ嚴ニ罰スルト雖ル亦兵卒ノ權利ヲ損害  
セサルニ注意スヘシ  
數日間一地ニ滞留スルヲ要スル片ハ所要ノ修理若  
クハ制作ヲ為サシメニ為メニハ其地ノ職工ヲ使役

スヘシ  
敵國ニ在テハ歸營喇叭ノ後テハ土民ヲシテ強テ其  
居宅ニ在ラシメ如何ナル口實アルモ外出スルヲ禁  
スヘシ

土民ノ我ヲ敵視スルノ情アルニ於テハ如何ナル事  
故アルモ寺院ノ鐘ヲ鳴ラスヲ禁スヘシ

分配

第八十一 陣中ニ在テハ日直太尉ノ任務ハ分配ノ  
ニ限ルカ故ニ分配大尉ノ称ヲ負フ

其職務ハ食料ノ品種ヲ檢知シ、分配定時限ニ正シク  
施行スルヤ否ヤニ注意シ及<sub>レ</sub>其施行ノ法如何ヲ監察

シ又日直士官ノ指揮ニ属スル各中隊ヨリ差遣シタル  
雜役兵ノ靜肅ヲ維持セシム等ニアリ且ツ分配大尉  
ハ日直ノ上長官ニ報告ヲ為ス

食糧ノ勤務規則正シク行フヲ得ヘキ片ハ平時分配  
ノ規則ニ循フテ之ヲ施行ス

雜役兵ハ舍學司令官ノ制定スル服装ヲ著シ且ツ諸  
物品ヲ運搬スルニハ成ルヘク聯隊車輛ヲ以テシ若  
クハ徵發ノ車輛ヲ以テスヘシ

現時ノ景況ニ由テ之ヲ要スル片ハ護衛枝隊ヲシテ  
雜役兵ヲ守護セシムルヲアリ

會計官糧食ノ支給ニ就テ確証シ能ハサル片ハ徵發

ヲ以テ之ヲ補フヘシ

警報

第八十二 舍管中警報ノ片ニ方リ各兵卒ハ速カニ  
 兵器ヲ執リ及器具ヲ携帶シ得ル為メ毎ニ其準備ナ  
 カルヘカラス其警報ノ片ハ急劇ニ銃ヲ執リ諸部隊  
 各其集合所ニ直ニ參集スヘシ  
 警報アルニ方リテハ土民ヲシテ其家屋ニ在ラレメ  
 門戸及窓牖ヲ閉鎖セシメ只其兩戸ヲ閉關セシメ且  
 ツ夜間ハ窓内ニ點火セシム此命令ニ違背スル者ハ  
 軍法ヲ以テ罰スヘキヲ諭示スヘシ  
 敵兵合管内ニ闖入シ或ハ我諸隊未タ整頓セサル前

既ニ總集合所ニ占據セシ片ハ宜シク巷路ヲ遮欄シ  
 庭内入口ヲ梗塞シ屋内ヲ占領スヘシ又建制部隊ノ  
 長ハ其兵ヲ蒐聚シ敵ノ攻撃ヲ防扞シ他兵隊ト合體  
 シ以テ攻勢ニ移レヲ勉ムヘシ

第三章

露營

露營ノ撰定

第八十三 敵兵ノ近傍ニアラス若シクハ特別ノ時機アラサルニ由リ正ニ取ルヘキ陣地ヲ占取スルニ及ハサルハ成ヘク乾燥ノ地ニシテ急雨ニ因テ洋溢スルノ憂ナク糧食草秣ニ富饒ナル處ヲ撰之ニ掩蔽ヲ設ケ以テ露營スヘシ

又成ヘク敵兵ノ近迹スルニ難ク露營兵ヲシテ其動作ニ易キ地ヲ求ム可シ

搭営隊司令ハ前ニ述フル處ノ趣意ト縦隊司令官ノ



旨トニ應シテ露營ノ地ヲ撰定シ其飲馬場及兵卒ノ  
 用水ヲ掘ムヘキ地并ニ危嶮ナル場所等ヲ探知シ容  
 易ニ識別スヘキ記標ヲ以テ之ヲ表スヘシ若シ其地  
 ヲ平易ニセンガ為メ多少ノ工役ヲ要スル片ハ搭營  
 隊ノ兵卒若クハ土人ヲシテ之ニ從事セシムヘシ  
 用水ノ不足ヲ恐ル片ハ井泉及ヒ飛泉ニ哨兵ヲ布置  
 ス  
 搭營隊司令露營ノ地ヲ撰定シ畢リシ片ハ本軍ヲ邀  
 ヘ之ヲ誘導スヘシ若シ時間ヲ得ルカ或ハ遠隔等  
 ニ因テ之ヲ能セサル片ハ其撰ミシ場所及ヒ之ニ達  
 スル道路等ノ精細ナル名称并ニ兵隊ノ要須物ヲ供

給スル一ニ就テ施セシ處分ヲ筆記シ一兵卒ヲ遣シ  
 テ縦隊司令官ニ之ヲ報ス  
 搭營隊ヲ設ケサル片ハ各聯隊中ノ副官露營ニ着ス  
 ルヤ否ヤ上章ノ事務ヲ負任ス

露營ノ經營

第八十四 歩兵隊露營ノ為メ撰定シタル地ニ整列  
 シ前哨ヲ布置スルマテハ前衛ノ掩護ヲ受ク凡ソ命令  
 ハ舍營ノ為メニ示セル如ク之ヲ傳達スヘシ  
 露營兵ノ配布ハ為メニ設クル土地ノ廣狹ト現時戰  
 術ノ要スル趣旨ニ依ルヘキモノナルガ故ニ或ハ縦  
 隊ヲ以テシ或ハ横隊ヲ以テス

一大隊縦隊ヲ以テノ露營

第八十五 四小隊ヨリ成ル縦隊中隊ノ重複縦隊(中隊ノ重複縦隊ト云フ)ニ在テ大隊長ハ前シノ順次如何ヲ重復縦隊ト云フ後中隊ノ間ニ二十米突ノ距離ヲ置キ及ヒ各中隊ノ小隊間ニ密集距離ノ二倍ニ均シキモノ(九米突)ヲ執ラシム

然ル後ヲ銃ヲ交叉セシメ右中隊ハ右向シ左中隊ハ左向シテ左右ニ分レテ行進シ每中隊ハ又銃ヲ距離六米突ノ間隔ヲ取リテ停止ス

天幕ハ又銃延長上ニ在テ小隊正面ノ二倍ニ均シキ幅ヲ以テ縦ニ之ヲ布配シ而シテ其天幕ハ六人ヲ容

ルヘキ者ニシテ各天幕間ニ一米突ノ間隔ヲ置ク

右中隊ニ在テハ軍曹ハ其小隊ノ右方ニ二名列スルカ或ハ其所屬彼羅頓ノ第一小隊ノ右方ニ四名列ス

左中隊ハ左方ニ於テ同法ヲ以テ配列ス曹長及ヒ給養軍曹ハ所属士官ノ同線上其中隊軍曹ノ後方ニ列ス

士官ハ其中隊ノ後尾小隊ノ幕後十米突ノ所ニ在リ

鼓手喇叭手及ヒ對壕手(軍旗アル大隊)右半大隊ノ先頭小隊ノ前方九米突ニ在テ其兵具及ヒ器械ハ此小隊ノ又銃前九米突ニアリ

風紀衛兵ハ左半大隊ノ先頭小隊ノ前方九米突ニシ  
テ其又銃ハ此小隊ノ又銃前九米突ノ地ニ在リ  
軍旗大隊ニアル片其位置ハ喇叭ノ又銃ト風紀衛兵  
ノ又銃トノ中間ニ在リ故ニ第二及ヒ第三中隊ノ又  
銃ノ間隔前九米突ニ在リ  
炊事場ノ火ハ各中隊ノ左方或ハ右方十五米突ニ在  
リ  
大隊長、副官、醫官ハ右半大隊ノ後方ニシテ第一中隊  
士官ノ後方十米突ニ在リ下副官ハ第四中隊士官ノ  
後方十米突ニ在リ  
馬匹、車輛、陣中病車及ヒ鍛工車ハ下副官ノ後方十米

突ニ在リ

酒保ハ左方ニ在テ第二及ヒ第三中隊士官ト同線上  
ニシテ炊事場ト齊頭ニ在リ  
圖ノ位置ハ其地形ニ應シテ大隊長ノ撰定スル所ニ  
係ル少クモ露營ヨリ六十米突距ルヲ要ス  
聯隊ニ在テ諸大隊左右ニ相列シタル片ハ接近セル  
二個大隊ノ炊事場ノ中間ニ二十米突ヲ置ク又諸大  
隊先後ニ相連ル片ハ其中間ノ距離ヲ二十米突トシ  
其中央ヲ以テ又銃ノ地ニ備フ  
諸大隊左右ニ相列スル片軍旗并ニ風紀衛兵ハ既ニ  
説明セシ如中央大隊ニ在リ其先後ニ相連ル片ハ每

ニ先頭大隊ニアル者トス  
 大佐、中佐、一等軍醫正ハ軍旗アル大隊ノ右方ナルニ  
 中隊ノ後チニシテ該大隊列外士官ヨリ距ル十米突  
 ニ在リ旗手及計官ハ大佐ノ後方十米突ニ在リ  
 樂手ハ軍旗アル大隊ノ左方ナルニ中隊ノ後方ニア  
 リテ鼓手長ハ樂手副長ト共ニ其左方ニアリ而シテ  
 樂隊長ハ大隊列外士官ノ線上樂手ノ前方ニアリ  
 輸車長ハ聯隊輜重ノ所ニ在リ而シテ總テ輜重隊ハ  
 各大隊ニ配當スルヲナク其事務ノ便益ヲ計リ之ヲ  
 蒐聚シ諸大隊先後ニ布陣スルト同線上ニ駢列スル  
 トニ應シテ後尾大隊ノ後方若クハ軍旗大隊ノ後方

ニ置ク

孤立中隊ニ在テハ地形ニ應シ重複縱隊ニ於ケル大  
 隊ノ中隊ノ為メニ記載シタル條款ニ則リ半中隊縱  
 隊若クハ縱隊中隊ニ布陣ス

一大隊橫隊ヲ以テノ露營

第八十六 大隊長ハ第二及第三中隊ノ中間ヲ小隊  
 面ニ倍ニ均シキ間隔ヲ執ラシメ其間隔内第三中隊  
 ノ右方ニ風紀衛兵ヲ配置シ鼓手喇叭手及對壕手ハ  
 所要ニ應シ第二中隊ノ左方ニ在ラシム  
 然シテ後チ銃ヲ交叉シ各中隊ハ六米突退キ天幕ハ  
 縱ニ二列ニ布置シ軍曹ハ二人或ハ四人同幕内ニア

ルニ從ヒ其小隊若クハ彼羅頓ノ右方第一線上ニ在  
 リ曹長及給糧軍曹ノ天幕ハ中隊ノ左方ニ在リ  
 炊事場ノ火ハ中隊ノ最後天幕線ノ後方十五米突ニ  
 アリ  
 酒保ハ炊事場ノ線上ニ於テ左端ニ列シ中隊ノ諸士  
 官ハ咸ナ同線ニ在テ其中隊ノ後方炊事場ヨリ二十  
 米突ノ後チニ列ス  
 大隊長及副官ハ第二中隊ノ后方士官ノ線後十米突  
 ニ列シ醫官ハ第三中隊ノ後方下副官ハ其同線上第  
 四中隊ノ後方陣中病車鍛工車馬匹車輛ハ下副官ノ  
 後ニ在リ

軍旗ハ陣ノ正面又銃線ノ中央ニ在リ鼓手喇叭手對  
 壕手、兵具器械ハ軍旗ノ右方、風紀衛兵ノ又銃ハ軍旗  
 ノ左方ニ在リ  
 圍ハ大隊長ノ撰定スル地位ニ設ケ少クモ露營ヨリ距  
 ル六十米突ノ所ニアリ  
 聯隊ニ在テハ諸大隊ハ同法ヲ以テシ二十米突ノ間  
 隔ヲ抹リテ左右ニ相列ス  
 大佐中佐及一等軍醫正ハ其大隊ノ數二個三個或ハ  
 四個ナルヲ問ハス毎ニ第二大隊ノ後チ十米突ニ於  
 テ其中央ニ列ス風紀衛兵ハ大佐ノ右位スル大隊ノ  
 所ニ在テ軍旗ハ風紀衛兵ノ右方ニ在リ

計官及旗手ハ同線上ニシテ大佐ノ近傍ニ在リ輸車  
長ハ輜重ト共ニ列ス

樂手ハ軍旗大隊ノ鼓手及喇叭手ノ後方ニ列シ樂隊  
長ハ士官ト齊頭ニ在テ樂手ノ後方ニ鼓手長ハ樂隊  
副長ト共ニ列ス

縦ニ天幕ヲ布置シタル片ハ此等ノ距離ヲ以テ確定  
ナルモノトス其横ニ天幕ヲ布置シタル片ハ其地形  
ト兵員ノ多寡ニ從ヒ變化アルモノトス

敵兵ト極メテ近接セルカ或ハ他ノ事故ニ依リ小幕  
ヲ布張スルヲ得ザルトアリ然ル片ハ其機ニ應シテ  
第八十五或ハ第八十六ニ示セル順序ヲ以テ露營ヲ

布置シ急造ノ掩屏ヲ以テ之ヲ覆フカ若クハ全ク  
之ヲ覆ハサルトアリ露營ノ焔火ハ掩屏ト同シク天  
幕ヲ張ルヘキ地ニ設ケ且ツ成ルヘク敵眼ヲ避クヘ  
シ

露營ヲ森林内ニ設クルヲ間々利便ナリトズルトア  
リ其時ニ於テハ各中隊ハ林縁ヨリ少シク退キタル所  
ニシテ適宜ノ地位ヲ使用スヘシ

露營ヲ撤スル片ハ竊藁若クハ掩屏ヲ焚燒スルハ嚴  
ニ禁制ス然テ焔火ハ撲滅スヘシ

人家ニ宿在スルノ禁

第八十七 露營ヲ布置スル片ハ其近傍ノ人家仮令

其家空虚ナルモ旅團將官ノ許可アルニ非サレハ一  
士官モ之ニ宿次スルヲ得ス若シ旅團將官之ヲ許可  
セシ片ハ之ヲ師團將官ニ具陳ス  
露營ノ近傍ニ在テ之ヲ能クマレハ銃工ノ作業場ト  
ナスヘキ家屋ヲ備フハシ

風紀衛兵

第八十八 風紀衛兵ハ前ニ示セシ如ク之ヲ編合シ  
且ツ配置シ前面哨ヲ分遣シ以テ陣ノ正面前ヲ監視  
シ及ヒ囚人ヲ護衛スルニ任セシム  
縱隊ヲ以テスルノ露營 孤立大隊ニ在テハ風紀衛  
兵左ノ如ク四衛兵ヲ派出ス

一銃前ニ一名

一荷物ヲ監視スル為メ其後方ニ一名

一各側面ニ一名宛

一風紀衛兵ハ其他大隊長ノ所在ニ使役一名ヲ派出ス

前面哨ハ伍長一名兵卒六名ヨリ編組シ大隊正面前

大凡百米突ノ地ニ設置ス

前面哨ハ銃前ニ一名ノ衛兵ヲ派出シ夜間ハ或ハ二

名トス

諸大隊横列シタル聯隊ニ在テハ其衛兵ノ數ヲ九名

トス

一正面前ニ三名其内一名ハ銃前哨ニシテ軍旗ノ護

衛ヲモ兼任ス

- 一 聯隊ノ各外側面一名宛
- 一 後面ニ三名其内一名ハ荷物ノ護衛ニ任ス
- 一 大佐ノ所在ニ一名
- 一 大隊先後ニ重疊スル片衛兵九名ノ部署左ノ如シ
- 一 銃前ニ一名軍旗護衛ニ任ス
- 一 各側面ニ三名宛
- 一 荷物後方ニ一名其監視ニ任ス
- 一 大佐ノ所在ニ一名
- 一 聯隊ノ前面哨ハ軍曹ノ指揮ニ属スル一分隊ニシテ前條ニ示セル如ク配置ス

横隊ヲ以テスルノ露營 孤立大隊ニ在テハ風紀衛兵ハ四名ノ衛兵ヲ派出ス

- 一 銃前ニ一名
- 一 大隊ノ左右翼ノ前方ニ一名宛此衛兵ハ各側面ノ監察ヲモ任ス
- 一 後面ニ一名荷物ノ監守ニ任ス
- 一 此他大隊長ノ所在ニ使役一名
- 一 聯隊ニ在テハ衛兵ノ數九名トス
- 一 銃前ニ一名軍旗ノ護衛ニ任ス
- 一 左右各大隊ノ前方ニ一名宛
- 一 聯隊ノ各側面ニ一名宛



一後面ニ三名其内一名ハ荷物ノ監視ニ任ス  
 一大佐ノ所在ニ一名  
 風紀衛兵ハ猶他兵ノ如ク捲屏若クハ天幕ヲ布張ス  
 ルヲ得ヘシ  
 嚴寒ノ時及ヒ殊ニ夜間ハ司令官令シテ風紀衛兵ニ  
 燭火ヲ用ヒ得セシム  
 通例衛兵線ノ經過ヲ許スハ其勤務ヲ帶フル者ノミ  
 ニ止マル軍隊外ノ者ニシテ露營ニ投入セントスル  
 片ハ之ヲ檢査スル為メ前面哨若クハ風紀衛兵ニ送  
 遣スルヲ要ス  
 兵隊司令官ハ他隊ニ属スル軍人ノ露營内ニ出入ス

ルノ規則ヲ定ム  
 總テ衛兵タル者ハ晝夜共ニ露營内外ニ於ケル非常  
 ノ動搖ヲ告知シ兵隊司令官ノ衛兵若クハ使役ハ直  
 ニ其司令官ニ報道シ前面哨ニ在テハ特別ニ囚人ニ  
 注意ス  
 号音ハ敵兵遠隔ニシテ之ヲ聞取セラレザル片ノミ  
 之ヲ用ユ然ル片ト雖片勉メテ少ク之ヲ用ユヘシ  
 風紀衛兵ノ司令ハ露營内ノ靜謐ヲ維持スル為メ其  
 ニ衛兵ノ勤怠ヲ檢知スル為メ巡察ヲ差遣シ且ツ尚  
 親カラ之ヲ行フ又其外日直上長官ヨリ得ル特別ノ  
 守則ヲ施行セシメ而シテ其敬禮ヲ表シ囚人ヲ警衛

シ或ハ護送スル等ハ舍營ノ章ニ示セル規則ニ循フ  
ヘシ  
露營ヲ撤スル片ハ風紀衛兵ハ集合ノ号音ヲ以テ諸  
衛兵ヲ招聚シ其本隊發程スル片ニ至リテ縱隊中其  
位地ニ復ス

露營内ノ勤務

第八十九 舍營ノ勤務及ヒ其分配ニ関スル普通ノ  
規則ハ露營ニ在リテモ之ヲ適用ス  
一般勤務ノ時間ハ露營司令官之ヲ定ム  
通常一日ニ三回ノ點呼ヲ行フ  
第一 朝起後半時ニ於テス

第二 正午ニ於テス

第三 歸營号音後半時ニ於テス

正午ノ點呼ニハ諸兵卒銃ヲ執リ背囊ヲ帶フ若シ小  
幕内ニアラハ小幕ヲ解崩シテ背囊ニ附スルニ及ハ  
ス而シテ朝夕ノ點呼ハ週番士官ノミ出場スルト雖  
凡其正午ノ點呼ニ當リテハ諸士官必ス出場スルヲ  
要ス

日直大隊長ハ其副官ヲ以テ補助トシ事務ヲ監視シ  
又自カラ數々風紀衛兵ノ勤怠ヲ檢知シ殊ニ夜間ハ最  
モ注意シ且ソ風紀衛兵ノ士官軍曹及ヒ伍長ノ施行  
スヘキ巡察ヲ命ス

各建制部隊ノ司令ハ所轄兵隊ノ靜謐軍紀及ヒ品行  
上ニ就テハ總テ其責ニ任ス  
時機ニ由リ各中隊ノ又銃ニ夜間衛兵一名ヲ各中隊  
ヨリ配置スルヲアリ然ル片ハ風紀衛兵ノ巡察及ヒ  
不候ハ此衛兵ノ勤怠ヲモ檢知スル者ナリ

警報

第九十 警報アル片ハ各自神速ニ兵器裝具ヲ帶裝  
シ又銃ノ所ニ馳集シ而シテ命令アルニ非サレハ束  
銃ヲ解ク可カラサル者トス  
諸士官ハ所轄兵隊ノ順序ヲ正クシ信憑心ヲ收メ勇  
氣ヲ維持セシムル等ノ為メニ所要ノ所置ヲ施シ又

各人ヲシテ沈黙ナラシムヘキヲ要ス  
風紀衛兵ハ其位地ヲ離レズ命令ヲ待ツ  
總テ誤テ警報ヲ傳フルノ患ナカラン為メ露管内若  
クハ其近傍ニ於テ發火スルヲ及ヒ其巡察不候等ノ  
互ニ相識別スル為メ規定セシ呼聲ノ外他ノ喚叫ヲ  
發スルヲ嚴禁スヘシ

露營撤散

第九十一 露營ヲ撤スル時限ハ成ルヘク預テ之ヲ  
告示スヘキ者ニシテ諸隊司令ハ其兵現居ノ地着ク  
ハ近傍ニ在リテ適切ノ地ニ其部下ヲ集合ス且ツ車  
輜ハ挽馬ヲ裝付シ其原位ニ在テ發途ノ命ヲ待タシム

第四章

野營ノ目的撰定及ヒ形容

第九十二 野營ハ通常大操練ノ時諸兵隊ヲ集合シ之ヲ宿次セシムルニ用ヰル者ナルカ故ニ平時演習ノ一手段トナルモノナリ  
戰時ニ在リテハ特別ノ時機ニ於テノミ之ヲ用ユ譬ハ攻城或ハ圍城ニ在テ兵隊舎營シ能ワサル片等ノ如シ

野營ノ撰定及ヒ結構ハ其目的ニ由テ定マル者ニシテ全ク演習ノ為ニスル野營ニ在リテハ之ヲ選ノニ唯ニ兵隊ノ便宜交通ノ自由用水ノ近傍糧秣ノ物資

等ニ就テ計ルニ過キス若シ夫レ一陣地ヲ掩護シ或ハ敵兵ヲ脅威スル為メ設置スル者ノ如キハ其目的ニ由リ野營ノ形状大小ヲ確定スヘキナリ

第五編

輸送隊及小作戰ニ関スル演習

此五編ハ通常小隊若クハ中隊ヲ以テ其教練ヲ行フ  
 奇襲伏兵及輸送隊ノ襲撃ニ関スル一ニ就テハ前章  
 行軍又ハ偵察勤務ノ教習ノ時ニ於テ大尉此種ノ施  
 業ニ適切ナル地點ヲ指定シ置クヘシ而シテ此教習  
 ノ片ニ當リ其中隊ヲ二部ニ分テ甲部ヲ防禦トシ乙  
 部ヲ攻撃ニ任セシメ以テ此動作ヲナサシム且ツ大  
 尉ハ教習ノ概要ノ方法ヲ附與シ且ツ審判官ノ職ヲ  
 負フ  
 而シテ后々二中隊ヲ互ニ相對峙セシムルカ若クハ

一大隊ヲ二部ニ分割シテ同一ノ教習ヲ復行ス然ル  
片ハ大隊長其事業ヲ指揮ス  
斯ノ如キ小作戦ニ模倣シタル演習ニ方リテハ毎ニ  
此書中ニ載スル行軍或ハ休止警戒勤務ノ諸則ヲ循  
守スヘシ

鐵道ニ係ル實地演習ハ常ニ鐵道局ノ役員ト照會シ  
以テ其演習ヲ施行スヘキ時間ヲ定ム而シテ所定ノ  
時ヲ以テ發車場ニ部下ヲ誘引シタル后チ其司令ハ  
戰時ニ方リ破壊スヘキ物品或ハ點位及之ニ用ユル  
方法ノ如何ヲ指示シ又時トシテ鐵道局ノ承認ヲ以  
テ發車場近傍ニアル不用ノ材料ニ付其鉄線及横材

ヲ鑿掘スルノ方法ヲ教示スルヲ得ヘシ  
電線等技術ニ係ル工作并ニ橋梁等ヲ破毀スル方法  
ニ至テハ行軍若クハ偵察ノ教習ニ於テ此種ノ事業  
ヲ施行シ得ヘキ諸點ニ遭遇スルニ應ジテ漸次ニ之  
ヲ換與スヘシ

實地演習基本定規ノ解説

第一章

輸送隊

輸送隊ノ目的

第九十三 輸送隊ニ數多ノ種類アリ其目的ハ彈藥、兵器、貨幣、糧餉、被服、屬具、傷者、患者、囚虜ヲ運送スル等ノ區別在リ

輸送隊ノ護衛

第九十四 輸送隊護衛ノ兵員及ヒ編合ハ輸送物ノ種質、其輕重、其遇フヘキ安危、其通經スル地勢及ヒ路程ノ長短ニ從テ裁定ス

彈藥輸送隊ニ在テハ其護衛ヲ衆多ナラシメ以テ戰鬪ニ近付カシメサル様ニナスヘシ  
通例騎兵ヲ以テ輸送隊護衛ニ分任セシメ其行進路ヲ搜索セシムル者ナリト雖モ其現景ニ由リ止ヲ得サル時ニ至リテハ歩兵ノミヲ以テ護衛ノ全兵ヲ編合スルコトアリ

司令官ノ權限

第九十五 輸送隊護衛ノ司令官ハ常ニ輸送隊中各人ノ上ニ於テ充分ノ權カヲ有ス而シテ其勤務便益ノ為メニハ輸送隊中ノ諸軍人ヲ使用スルヲ得ヘシ然レモ其隊中其司令ヨリ上級ナル者或ハ同級ニシ

テ故參ナル者現在スルモハ發程前ニ於テ行進ヲ命スル長官其司令ノ權ヲ制定ス

司令官ハ輸送隊中ニアル諸勤務ノ長ト協議シテ休止車陣ノ方法衛兵ノ員數發途ノ時限等ヲ確定ス若シ輸送スル者陣中病車タルモハ其傷者患者ノ為メ執ルヘキ良法ヲ協議スヘシ

司令官ハ細詳ニ記シタル教示書ヲ受ケ發途前日ニ方リ諸車輛ヲ蒐聚シ其道路ニアルカ如ク車陣ヲ作ル者トス

司令官ハ車輛ノ載積物及ヒ景況ヲ檢査シ須要ナル預備ノ材料ヲ貯備スルヤ否ヲ檢知シ又成ルヘク工



具ヲ省畧シ所要ノ時ニ方リハ土民ニ課シテ其遭遇  
スル嶮難ヲ平夷ニ為サシム且ツ護衛兵及ヒ馭者ノ  
糧食并ニ輓獸ノ蒞秣等行進間不足ヲ生セサル様手  
配ヲ為ス者トス  
司令官ハ發程前ニ於テ其經過スヘキ地ヲ探知シ注  
意シテ地圖ヲ研究シ其土地ノ種類、狹隘、橋梁、危嶮ノ  
通路、道路ノ景狀及ヒ其廣狹、通經スヘキ村落及ヒ伏  
兵ノ潛據シ得ヘキ土地等ヲ熟知スヘシ  
若シ其通路預メ決定セサリシキハ司令官タル者其  
通路設使迂遠ニ屬スルモ通例通過シ易キ平路ヲ撰  
ムヲ善トス

輸送隊行進順次

第九十六 輸送隊ノ長サヲ成ルヘク短縮スル為メ  
廣道ニ在テハ車輛ヲ二行ニ列シ其距離ヲ二米突ト  
シ断ヘス此順次ヲ保存セシム夫カ為メ各個ニ番号  
ヲ付ス  
著大ナル輸送隊ニ在テハ宜シク數隊ニ分割シ各部  
隊ニ歩兵ノ小技隊ヲ添加スヘシ且ツ其他歩兵ヲシ  
テ道路ノ両側ニ派出セシメ輸送隊ノ順次ヲ保存ス  
ルト輓夫ヲ監視スルト及ヒ嶮難ノ通路ニ方リ輓夫ヲ  
援助スルニ任セシムヘシ  
車輛行進ノ順次ハ左ノ如シ

- 一 彈藥車
- 一 陣中病車
- 一 貨幣車
- 一 糧食車
- 一 被服車
- 一 荷物車

尚<sup>ホ</sup>其他輸送隊ニ隨行スルノ許可アル諸車輛ハ最後ニ在ルヘシ  
然レ<sup>レ</sup>此類ノ計リ得タル敵ノ企謀ニ由リ此配列ヲ墨守スルヲ得サルヲアリ然ル片ハ通例軍隊ノ為メ最モ貴重トスル所ノ車輛ヲシテ常ニ危害ヲ避ケシム

ル為メ最モ適切ナル順次ニ在テ行進セシム可シ

行進及防禦ノ配備法

第九十七 輸送隊ノ護衛ハ毎ニ前衛後衛ヲ備ヘ側兵ヲ分派ス其司令官ハ最モ大切ナル點ニ護衛首部ヲ置キ自己ノ指揮ニ屬セシム  
全ク敵閥ノ地ニ在テハ本隊タル護衛ノ首部ハ輸送隊ノ中央ニ位スルト雖<sup>レ</sup>其他ノ景況ニアリテハ敵兵ノ攻撃ニ觸レ易キ方向ニ從ヒ或ハ前頭或ハ後尾ニ在リテ行進ス又或ハ二三ノ部隊ニ分割スルヲアリ  
前衛後衛及側兵ハ其行軍縱隊ノ警戒ヲ確實スル為

メニ示セル一般ノ規則ニ循フヘシ  
若シ輸送隊ノ先頭ニ危懼スルヲアラハ前衛ハ敵兵ノ障礙物若クハ兵カヲ以テ我ニ抗抵シ得ヘキ狹隘及諸種ノ地點ヲ占守ス斯ノ如キハ本隊ノ一部ハ前衛ニ續テ行進シ其地ニ到リ前衛ト交代シ以テ輸送隊先頭ノ來會スルヲ待テ始メテ發途ス而シテ本隊其地ノ守備ヲ解クハ輸送隊ノ全部通過セシ後ニアリ且ツ或ハ司令官必要ナルト裁定スルハ尚永ク之ヲ守ラシムルヲアリ  
若シ西側面危難ナルハ前衛及後衛ノ兵員ヲ減省シ而シテ輸送隊ノ行進ヲ掩護スル為メ占領スヘ

キ地位ニハ其先頭ノ到達スル前ニ於テ護衛首部ヨリ枝隊ヲ派出シテ之ヲ衛ランメ以テ輸送全隊ノ超踰シ畢ル迄之ニ占居セシム  
峻難ナル通路ニ方テハ軌敷ヲ増倍シ又車輛破損シタルハ之ヲ列外ニ出シテ修理セシム若シ修理シ難キハ其載物及ヒ軌敷ヲ他車ニ付加ス然レモ過當ノ量ヲ負ハシメサル様注意スヘシ斯ノ如キハ輸送隊司令官若シ運送ノ手段不足スルト思惟セハ該地ニ於テ徵發ヲ行ヒ以テ之ヲ補綴スヘシ  
休止及ヒ車陣

第九十八 輸送隊ハ每時ニ成ルヘク平地ニ於テ暫

時間停止シテ以テ輓歌ヲ休息セシメ且ツ後尾車輛ヲ  
シテ其距離ヲ閉縮スルノ猶預ヲ得セシムヘシ  
大休ハ甚稀ナリ唯預知シタル所ニシテ其防禦ニ容  
易ナル地ニ於テノ之ヲ為ス然ル片ハ近傍ノ村落  
并ニ敵兵得テ潛匿スヘキ地ヲ細搜シ其警護ヲ嚴整  
ニシ馬匹ハ之ヲ車輛ヨリ解放ス可ラス  
夜間ハ敵ノ正攻ヲ防キ或ハ奇襲ヲ警ムル為メ車陣  
ヲ作クルヘシ若シ其通過スル地敵國ナルカ或ハ土  
民不逞ノ心アル片ハ成ルヘク住民地ヲ離レテ停止  
スヘシ  
車陣ヲ作ルニハ通常車輛ヲ數列ニナシ其車輛ヲ相

對セシメ輓木ヲ同方ニ向ケ而シテ各列ノ間ハ馬匹  
ヲシテ自由ニ施廻スルヲ得セシムルニ足ル可キ間  
隔ヲ存スヘシ  
若シ攻撃ノ恐レアル片ハ車陣ヲ正方形トナシ後部  
ニアル車輪ヲ外方ニ向ケ馬匹ヲ方陣ノ内方ニ向カ  
シム  
發途ノ時ニハ各部隊ハ之ニ先行スル部隊ニ繼ク可  
キ期限ニ至テ其馬ニ鞭ヲ付ス

輸送隊ノ防禦

第九十九 輸送隊司令官ハ其職掌ノ單純ナル目的  
ハ已レニ委托セラレタル輸送隊ヲシテ能ク送達ス

ルノ一途ヨリ其眼睛ヲ離ス可カラフ且ツ開戦ニ由  
 リテ敵兵ヲ避ケ或ハ之ヲ抑止スルヲ得或ハ防禦ニ  
 最モ割切ナル地形ヲ得ヘキ為メノ時ニ非レハ切リ  
 ニ戦ヲ開クヘカラス  
 輸送隊司令官敵兵現在ノ報ヲ得ルヤ成ルヘク車輛  
 ノ縦列ヲ閉縮シ順次ヲ紊サス連續迅速ニ行進スヘ  
 シ而レテ其敵兵ノ數我ヨリ大ニ衆多ナルヲ確証セ  
 シ後ニ非レハ濫リニ停止シ若クハ車陣ヲ作ルヲ須  
 ヒス  
 其車陣ヲ作ル片若シ車輛ノ列多カラサレハ其列ヲ  
 増倍シ行進ノ方向ニ直角ニ配置シ轅木ヲ路内ニ向

ケ馬匹ヲ相對セシム而シテ路幅斯クシ能ハサル片  
 ハ車輛ヲ接著シ馬匹ヲシテ攻撃反對ノ方向ニ旋回  
 セシムヘシ  
 馭者ハ其馬ヲ善ク駕御セシムル為メ徒歩ニシテ馬  
 頭ニ在ラシメ而シニ遁逃セント欲スル馭者ノ如キ  
 ハ士官及ヒ軍曹ノ專断ヲ以テ之ヲ處分ス  
 撤兵ハ成ルヘク永ク敵ヲシテ輸送隊ニ近ツカシメ  
 ス其輸送護衛ノ兵隊ハ勇悍ノ攻撃ヲナシ以テ撤兵  
 ヲ扶掖ス尚之ヲ要スレハ護衛騎兵モ亦相集合シテ  
 劇烈ニ敵兵ヲ突撃ス又敵退却スルモ猥リニ之ヲ追  
 撃シ伴退ノ謀計ニ陥ルナカレ

車陣中車輛ノ火災ニ罹ルモノアラハ宜シク其焚燃  
 スル車輛ヲ遠サケヘシ若シ之ヲ能クセサルハ先  
 ツ彈藥車ヲ擯ケ次ニ風下ニ在ル車輛ヲ遠サケ而シ  
 テ路上ニ在テハ先ツ輓獸ヲ解放セシ後其焚燃スル  
 車輛ヲ隍中ニ投棄シ而シテ其輓獸ハ嚮キニ示セル  
 方法ニ從ヒ他ノ車ニ分賦スヘシ  
 戰爭ノ景況ニ由リ止ヲ得サルハ當リ我一哨ノ近  
 傍ニシテ土地ノ種質其施行ニ便ナルハ多少ノ車  
 輛ヲ放フヲ試ミサルヘカラス又時宜ニ由リ司令  
 官ハ輸送隊ノ一部ヲ敵兵ニ鉗シ他車ヲ免カレシム  
 ルヲアリ然ルハ成ルヘク葡萄酒或ハ燒酎等ヲ載

タル車輛ヲ殘棄スヘシ而シテ其彈藥車ノ如キハ危  
 急ノ極ニ至ラサレハ之ヲ放擲スルヲナカレ  
 術ヲ盡ミテ防禦セシ後其兵過半死亡シ司令官自ラ  
 以テ抗拒久キニ支フヘカラス且ツ他ニ應援ヲ待ツ  
 ノ目的ナキト思察セシハ火ヲ車輛ニ放テ猛烈ノ  
 舉動ヲ以テ奔路ヲ開キ其輓馬ヲ率ユルヲ試ム可シ  
 若シ之ヲ為シ能ワサレハ輓獸ハ之ヲ敵兵ニ委棄セ  
 シヨリハ寧口塵殺スルヲ愈レリトス

囚虜輸送隊ノ護衛

第百 囚虜護衛ハ特別ノ監視ト嚴重ノ警戒ヲ要シ  
 士官ノ囚虜ハ宜シク囚虜ナル士卒ト分ケ置クヘシ

囚虜ノ護送ニ任スル士官或ハ下士ハ囚虜ヲ以テ二人或ハ四人面ノ密集縱隊ヲ作り護衛兵ヲシテ其縱隊ニ先行シ躡從シ及ヒ側進セシム而シテ其護衛兵ト囚虜トノ談話ヲ禁シ尚囚虜ヲシテ土民ト語譚スルヲ防止ス

發程ノ片ニ方テハ護衛ハ囚虜ノ面前ニ於テ其銃ニ裝填シ総テ扞抵ノ事アルニ於テハ死テ以テ罰スヘキヲ告示ス而シテ護衛ノ兵寡少ナルニ從ヒ益其所置ヲ嚴重ニシ其扞抵若クハ徒黨ノ徵アラハ其首魁ヲ別ニシテ警視ヲ殊ニ嚴密ニスヘシ  
囚虜ノ要須物ハ成ルヘク之ヲ給與シ又之ニ加フル

ニ罵詈ヲ以テスヘカラス其患者ハ厚ク之ヲ待遇スヘント雖斥毎ニ監視ヲ怠ルヘカラス而シテ休止若クハ露營ノ片ハ住民地森林伸ヒタル耕作物ヨリ遠隔ニシテ開豁ノ地ヲ求ムヘシ

輸送隊舎營ヲ為スヘキ片ハ囚虜ヲ確實ニ護衛シ得ヘキ大厦ヲ撰ミ其室内ニ歩哨ヲ配置シ且ツ燈火ヲ點シ唯一門戸ノ開キコ、ニ衛兵ヲ設置ス而シテ其  
余ノ護衛兵ハ近鄰ノ家屋ニシテ最モ該家ニ接近シタル所ニ宿次スヘシ

輸送隊攻撃ヲ受ケレキハ囚虜ヲシテ強テ伏卧セシメ護衛ノ一部其側ニ在リテ若シ命令ヲ待タズ候リ

ニ起立スル者アラハ何人ヲ問ハス之ヲ火撃ス他ノ  
護衛兵ハ前進シテ敵兵ヲ逆撃スヘシ

輸送隊ノ攻撃

第一百 輸送隊ヲ攻撃スルノ機會ハ森林、狹隘、橋梁、  
道路ノ曲屈、若クハ嶮難ナル墜坂等ニアリ  
攻撃隊ノ一部ハ護衛兵ヲ散乱セシムル間ニ於テ數  
個ノ群兵ハ輸送隊先頭及ヒ後尾ニ向ヒ進ミ其車輛  
ヲシテ道路ニ横ヘ以テ他ノ車輛ヲシテ進退スルニ  
難カシムヘシ  
輸送隊巨大ナル片ハ數ヶ所ヲ同時ニ襲撃シ其護衛  
兵ヲ支分セシメ而シテ其奏功ノ後ニ至リ提携ス可

カラサル車輛ハ之ヲ灰燼トス可シ

諸種ノ兵ヲ以テ護送スル輸送隊

第一百二 各兵種協同シテ輸送隊ノ護衛ニ任スル片  
ハ騎兵ヲ毎ニ前衛トシ輸送隊ノ通過スヘキ本道ニ  
達スル道路ニ偵察隊ヲ差遣セシム以テ精密ニ其地  
ヲ探偵セシム又其他二三ノ騎兵ヲ縱隊中ニ梯狀ニ  
列シ行進一切ノ監視ヲ助ケシム且ツ新報及ヒ命令  
ヲ急速ニ傳送スルニ任セシム  
歩兵ハ通常三枝隊ニ分レ輸送隊ノ先頭中央及ヒ後  
尾ニ在テ行進ス其各部ノ兵員ハ敵襲ノ憂ヒ前面或  
側面若クハ背面ニ在ルニ從ヒ變更一ナラス



輸送隊ニ大砲ヲ附加スルハ其司令官ハ現地ノ形勢及ヒ現時ノ景況ニ應シテ之ヲ配置ス  
行進ノ順次、休止、車陣ノ配置、及ヒ防禦ノ地位ヲ撰定スル等ハ前條第九十六、第九十七、及ヒ第九十八ニ示セル諸法ニ從フヘシ  
前進行ニ在テハ步兵ハ殊ニ高キ地部ニ占據シ撤兵及ヒ之ヲ要スレハ小哨ヲ以テ掩護スヘシ  
退却行ニ在テハ步兵ハ橋梁ヲ破毀シ、反壘ヲ設ケ或ハ道路ヲ顛壞スル等成ルヘク障礙物ヲ以テ敵兵ヲ抗拒スヘシ

第二章

軍須徵發

徵發ニ関スル舉措

第三百 出戰中ニ在テ其地ノ物資之ヲ能スレハ兵隊ニ要頂物ヲ供給スルノ最モ簡易且ツ便利ノ手段ハ徵發ニ如クハナシ然レモ住民ノ利益ヲ保存シ其地ヲ全ク窮乏セシムルヲナク又物資ノ徒費ト人民ノ擾乱ヲ避ケン為メ公正確實ノ命令ヲ以テ規則正シク徵發ヲ行ハシムルヲ緊要トス  
糧食、宿舍、運送、諸種ノ物品、病院及、俸給等ノ如キ兵隊ノ給與ニ関スルノ事ハ總テ徵發ヲ用テ其需要ニ供スルヲ得ヘシ

總テ徵發品ハ會計監督若クハ其不在ニ當リテハ本  
隊司令官ノ出ス所ノ臨時ノ領證ニ由リ之ヲ證明ス  
徵發ノ丁ニ任セラレタル士官ハ徵發スヘキ土地及  
其物品或ハ食料ノ種類并ニ分量等ヲ記載シタル命  
令書ヲ領受シ一枝隊ヲ引卒シ之ヲ二部ニ分テ甲部  
ヲシテ其事業ヲ保護セシメ乙部ヲシテ之ヲ施行セ  
シム其甲部ハ其地ノ諸出口ニ占守シ以テ敵兵ニ報  
道スル者ト及何人ヲ問ハス出入スル丁ヲ妨止スル  
ニ任シ其乙部ハ成ルヘク其地ノ外方ノ一點ニ在テ  
土民ヲシテ徵發ノ物品ヲ運聚セシムルニ任ス而シ  
テ枝隊司令官ハ邑長若クハ仲士等ヲ招集シ嚴格簡

明ニシテ之ニ命スルニ要求物品ヲ交付スヘキノ地  
點及時限ヲ以テス尚ホ之ニ諭スニ其命ヲ正シク遵奉  
セサルニ於テハ更ニ購金ヲ課スルカ或ハ村落家内  
ニ就テ悉ク檢索スヘキ旨ヲ以テスヘシ  
徵收シタル物品ハ枝隊ノ引卒シタル車輛若クハ其  
地ニ於テ徵得シタル車輛ニ累載ス而シテ枝隊司令  
官ハ發程前ニ方リテ運送手段ノ如何查檢スヘシ  
車輛全ク欠乏スルニ際リ若シ其枝隊中騎兵ノアル  
ハ之ヲ下馬セシメテ其馬ニ載積スヘシ一頭ノ馬負  
擔スヘキ量ハ大概百吉羅瓦羅諾トス  
物品ノ斤量ハ次ノ割合ニ由リテ算定スヘシ

- 一 一米突立方藁ノ量 六十二吉羅瓦羅諾
- 一 一米突立方枯草ノ量 六十五吉羅瓦羅諾
- 一 一米突立方燕麥ノ量 四百八十吉羅瓦羅諾
- 一 一米突立方大麥ノ量 五百八十吉羅瓦羅諾
- 一 一米突立方裸麥ノ量 六百七十吉羅瓦羅諾
- 一 一米突立方小麥ノ量 七百五十吉羅瓦羅諾

獸類ノ肉量ハ已ニ屠リタル後ハ其生前ヨリハ百瓦羅諾ニ就キ四十乃至四十五瓦羅諾減却スル者トス

又同シク徵發法ヲ用ヒ職工ヲ使役シ兵隊ノ為メ所要ノ工作ヲ為サシム

徵發枝隊ノ防禦

第四百 敵兵徵發枝隊ヲ攻撃スルニ當リテハ其地形及時機ニ從ヒ或ハ彼ニ向テ進ミ或ハ其地ニ止リテ之ニ應ジ其間徵獲ノ物品ヲ悉ク送致ス此防禦ハ輸送隊防禦ト同一ノ方法ヲ以テ行フヘシ

徵發隊ノ攻撃

第百五 徵發枝隊ヲ襲撃スルハ最モ急劇猛烈ニ施  
スヘキ者ニシテ速ニ敵ノ哨所ニ達シ之ヲ逐フテ援  
隊ニ至リ之ヲ散乱セシメ終ニ徵發ニ從事スル者ニ  
迫テ之ヲシテ集合ノ時間ヲ得セシムヘカラス而シ  
テ尚<sup>ホ</sup>其一部ヲ敵兵ノ退線ニ往カシメ單行者ヲ捕拿  
セシム

第三章

奇襲及<sup>レ</sup>伏兵

奇襲

第百六 奇襲トハ敵防禦ニ不利ノ状態アルニ乘シ  
其意表ニ出テ神速猛烈ニ行フ所ノ攻撃ナリ

其時ニ方リ功績ヲ得ルノ最確實ナル法ハ其謀慮ヲ  
秘匿スルノ堅固ナルト敵方薄弱ノ部分ヲ詳ニ認識  
スルトニ在リ  
奇襲ニ最モ剋切ナル時期ハ拂曉ニアリス雨天陰霧  
或ハ炎熱ノ候ヲモ利用シ尚<sup>ホ</sup>夜間ニ乘シテ精撰ノ銳  
兵ヲ以テ小戦ヲナサシムルヲアリ総テ行進間ハ枝  
隊長其部下ヲシテ嚴ニ嚀口セシメ而シテ其住民地  
及<sup>レ</sup>大道ヲ避ケテ行進シ又退却線ヲ偵知シ之ニ援隊  
ヲ備フ其退却線及<sup>レ</sup>集合ノ合圖及<sup>レ</sup>其地點等ハ部下ノ  
諸兵ニ示シ置クヘシ  
攻撃ノ時ニ方リテハ意ヲ決シテ快速ニ之ヲ行フヲ

要ス若シ奇襲ノ目的敵兵ヲ捕獲スルカ或ハ哨所ヲ奪収スルカ或ハ砲門ニ打釘スルカ等ニシテ一陣地ヲ侵畧シ之ニ占據スルノ趣旨ニ非サルハ其功ヲ奏スルヤ否直ニ退却スヘシ蓋シ斯ノ如キ時ハ敵兵多クハ其地ニ在テ轉シテ攻勢ヲ執ラシテ務ムルモノトス

奇襲ノ目的タルヤ僅少ノ人員ヲ以テ敵兵ニ許多ノ損害ヲ蒙ラシムルニアリ故ニ各自特別ノ職務ヲ擔任ス例ヘハ敵ノ首長等ヲ襲撃シ及之ヲ捕擒シ或ハ其兵器ヲシテ無用物タラシメ或ハ我兵ノ囚虜ヲ奪還シ或ハ輓馬ノ綱ヲ切断スル等ナリ

住民地ノ奇襲

第百七 住民地ヲ奇襲スルニハ枝隊ヲ數部ニ分テ同時ニ數点ヲ攻侵セシム様其事業ヲ施スヘシ而シテ其一部ハ全ク攻撃ニ任ジ他一部ハ出口ニ占據ス其豫備隊ハ該地ノ外部ニ在テ事ニ從フニ準備ス凡ソ此種ノ施術ニ於テハ各人獨斷事ニ處スルノ必要タルヲ以テ其攻撃ノ方策ハ枝隊中ノ各員ニ傳示シ置クヘシ

行軍隊ノ奇襲

第百八 行軍隊ヲ奇襲スルニハ敵兵ノ戰備ニ困難ナル地點ヲ撰ミテ之ヲ行フ例ヘハ狹隘ニシテ縱隊

ノ一部既ニ之ニ入ルルハ、如シ此時ニ於テハ攻侵隊司令官ハ銳意シテ其孱弱部ヲ衝突スヘシ

### 伏兵

第百九 敵兵ヲ奇襲スル為メ、或ハ其追撃ヲ抑遏スル為メ兵隊一地ニ潜匿シテ伏兵ヲ設置ス。此時ニ方リテハ猶奇襲ノ時ノ如ク其事ノ秘密ヲ以テ奏効ノ要件トス。カ為メ出發ハ夜間ヲ以テシ、枝隊ヲシテ拂曉前ニ所定ノ地ニ著達セシムルヲ常トス。其雨天濃霧ノ時ハ最モ好機會ニシテ奇襲セント欲スル隊ニ發見セラレサル様勉メテ、拗道森林及ヒ岡阜ノ背後等ヲ進行シ且ツ音ニ其敵兵ノ進ムヘキ

道途ニ伏兵ヲ配布スルノミナラス尚小枝隊ヲ出シテ故ヲニ敵兵ヲシテ之ヲ追撃セシメ以テ我伏兵ニ誘致スルヲ求ムヘシ

伏兵設置ノ地ニ在テハ隊長ハ其部下ヲシテ嚴ニ囁口セシメテ且ツ隱匿セシメ又各兵ノ耐忍ナラサルト切リニ外方ヲ望ムトヲ制シ且ツ合圖アルニ非サレハ攻襲ヲ行フナカラシム而シテ歩哨若干員ヲシテ能ク潜匿セシメ伏兵ヲ掩護セシム若シ其攻襲利アラサレハ枝隊ハ預テ決定セル集合所ニ會集スヘシ

### 第四章

鐵道電線及ヒ材料等ヲ破壞スルノ法

破壞ノ要旨

第一百十 技術ノ製作物ハ命令ナクシテ之ヲ破壞シ若クハ之ヲシテ無用物ニ為サシムルヲ得サルヲ以テ不易ノ通則トス而シテ此任務ハ特科士官ニ委任スルヲ常トスト雖氏間歩兵隊ヲシテ此種ノ事業ニ協力徒事セシメ或ハ又之ヲシテ全ク其施行ニ任セシムルヲアリ総テ此等ノ事業ニ至テハ毎ニ武装セル一枝隊ヲシテ之ヲ守護セシムヘシ

鐵道

第一百十一 或ル人員ノ一區隊ニテハ鐵道ヲ破壞スルニ足ラサルモ亦以テ數時間若クハ數日間鐵道往復

ヲシテ危險ナラシムルニ足ル者トス此事業ノ為メ兵卒ハ特別ノ工具ヲ携持シ又時トシテ之ヲ發車場ニ獲收シ若クハ土民ヨリ徵求ス

緊要ナル工具ハ即チ

一 鍵 鉄線ヲ結繫スル處ノ繫線即ち鉄板ノ此螺ヲ解轉スルニ用ユ

一 鹿足挺 鐵線ト横架材ニ緊結スル鐵釘ヲ蠲除ス  
スルニ用ユ

一 小鋸 大鋸

一 匙鋏 鴨嘴鋏 鐵道横架ヲ掘出スルニ用ユ

導火索ノ付タル爆藥留

此諸種ノ工具ハ車輛ニ載セテ縱隊ノ後尾ニ陪從ス  
 第百十二鉄路ノ破壊法 破壊スヘキ鉄路ノ點ハ成  
 ルヘク曲折或ハ築推ノ部ニシテ支分セル地ヲ撰ム  
 ヘシ蓋シ之ニ由テ生スル損害ハ大ニ較著ナレハナ  
 リ  
 枝隊司令官ノ第一ニ着手スヘキハ電線ノ交通ヲ断  
 テ敵兵ニ我謀策ヲ報道スルノ便ヲ失ハシムルニア  
 リ  
 鉄路ノ設築法ニ由リ之ヲ毀損スルニ二法ノ用ユヘ  
 キアリ  
 其一 鐵鏈ヲ以テ鉄路ノ楔ヲ取除キ鹿足挺ヲ以テ

鉄路ヲ其鐵枕ヨリ出ス  
 其二 鏈ヲ以テ繫鐵板ヲ拔去リ或ハ小鏈ヲ以テ之  
 ヲ破毀スル  
 且ツ線路ノ床堤ヲ鑿穿シ鐵釘ヲ掘出  
 シ鹿足挺ヲ以テ之ヲ引抜キ或ハ之ヲ摧折スル  
 此一次ノ業ヲ終レハ兵卒三名ノ手力能ク鉄路ヲ脱  
 却スルニ足ルヘシ  
 鐵線ヲ離除セシ後チハ横架材ヲ掘出シ之ヲ積累シ  
 テ火ヲ放チテ焚燒スヘシ然ルル其鐵線ハ火中ニ在  
 テ熱度ノ為メニ屈曲シテ復タ用ユ可カラザルニ至  
 ル  
 又鐵線ヲ河中ニ投シ或ハ車輛アラハ之ヲ運輸スル



鐵路ヲ破壊スルニ最モ簡易ニシテ且ツ疾速ナル者  
 ハ爆藥ヲ用ヒ其破烈力ニ由リ鑛線ヲ破毀スルニ如  
 カス而シテ之ヲ為サンニハ線路ノ床堤ヲ穿テ鑛線  
 ヲ結繫スル所ノ側ニ火藥ヲ埋メ其火藥箱ノ上面ト  
 鑛線トヲ密著セシメ夫カ為メ備ヘタル道火索ヲ以  
 テ之ニ火ヲ送り其施業ヲ全ス  
 隧道或ハ鑿道ノ壞墜ハ大抵爆藥ノ破烈力ヲ以テ之  
 ヲ行フ者ニシテ隧道ニ在テハ其穹窿ノ鍵点ノ下ニ  
 装シ鑿道ニ於テハ其支柱壁ニ對シテ之ヲ設置ス  
 第百十三 發車場ノ破壊法 發車場ニ於テハ轉線

針根基及動線ニ鑛挺ヲ緊結スル所ノ乳螺ヲ引抜キ  
 テ轉線針ヲ破毀シ又旋回鑛板ノ鋸齒輪ヲ傾曲シ導  
 水器ノ要用ノ部分ヲ除去シ若クハ破壊シ貯水器ヲ  
 毀損シ機關車中ノ蒸氣及瀛罐ヲ破毀シ爆藥ヲ其導  
 氣管ニ装着シテ之ヲ破裂セシム  
 凡テ器械ヲ使用スルニ關スル要品ハ成ルヘク充分  
 ニ破毀スヘシ凡ソ鑛路ニシテ機關車新々ニ其用水  
 ヲ得ルノ道ナカラシメハ則チ無用ノ鑛道タルヘ  
 シ  
 轉回材料及諸貯蓄物殊ニ石炭ヲ焚燒スルヲ以テ全  
 ク破壊ヲ遂ケタリト謂フ可シ其發車場ヲ放火スル

如キハ戰闘ノ一ニ就テハ通常普較ナル功益ヲ視サ  
ル者ナリ

若シ一枝隊アリテ其任鑛道ヲ破壊スルニ非スシテ  
唯其景況ヲ偵察スルニ止マル片ハ其隊長ハ搜兵ヲ  
發遣シテ鑛路及其兩側道ヲ進行セシメ且ツ之ヲレ  
テ運送車ニ乘リ徐カニ鑛路上ヲ運轉セシメ以テ其  
線間ノ距離及堅否ヲ検査シ又前ニ示セシ如キ破壊  
ヲナシアラサルカ否ヲ實檢ス可シ

電線

第百十四 電線ヲ破壊スルニハ成ルヘク鑛鎚大鋏  
鋸或ハ斧匙鋏及鴉嘴鋏ヲ携フヘシ

支導器ヲ破毀シテ電線ヲ成ルヘク長延ニ切断シ且  
ツ除去シ其托線木柱ナル片ハ之ヲ斷テ鑛鎚ナレハ  
之ヲ基坐ヨリ脱シテ顛覆スヘシ若シ電線ヲ地中ニ  
布ク片ハ數多ノ竅ヲ穿テ其線ヲ探ルヘシ但シ其線  
タル深ク地下ニ入ルモノ殆ント稀ナリ  
電信局ニ於テ破壊ノ一ヲ行フニハ宜シク其器械ヲ除  
去シ發電器ヲ破却シ電報諸書牘及帳簿ヲ集収スヘシ  
送信ノ一ヲレテ暫時間停止セシメントスル片ハ諸  
線ヲ集束シ他ノ線ヲ以テ之ヲ緊結シ地下ニ埋没ス  
ルニ在リ此事業ハ極メテ迅速ニ施シ易クシテ復之  
ヲ再設スルニ易シトス

橋梁

第一百十五 石橋ヲ破毀スルニハ爆藥ヲ其穹頂ニ置キ之ヲ沙礫若クハ積土ヲ以テ掩覆スル片ハ通常其破裂能ク其穹窿ヲ粉齊スルニ足ルヘシ

鐵橋ニ在テハ爆藥ヲ填充シタル麻囊ヲ以テ橋窓或ハ橋桁ニ附着スヘシ

懸橋ヲ破壞スルニハ其懸繫スル所ノ鐵鎖ノ一端ヲ断切シテ之ヲ破ルヘシ

木橋ヲ破毀スルニハ橋板ニ膏油若クハ瀝青ヲ灌注シ同時ニ各所ニ火ヲ放ツヘシ若膏油等ヲ得難キ片ハ乾燥シタル束柴ヲ使用ス又其近傍ニ束柴ヲキ片ハ爆藥

ヲ以テ之ヲ破裂セシムルカ或ハ橋板ヲ除去スヘシ

船橋ヲ破ルニハ火ヲ放ツテ之ヲ燒キ或ハ船底ノ板ヲ穿テ船ヲ沈没セシム而シテ渡舟ヲ毀ツモ亦同法ヲ用ユ

溝渠

第一百十六 溝渠ヲ破ルニハ其水閘及溢口ヲ破毀シ水門ノ運轉機ヲ毀テ之カ為メ移轉輪ノ小輪或ハ軸ヲ除去スヘシ

第一百十七 淺瀬ヲシテ無用タラシムルニハ農夫ノ茅犁ヲ投シ其尖頭ヲ上ニシ且ソ數箇ノ大石ヲ以テ水勢ノ之ヲ放流スルヲ防キ又或ハ僵樹ヲ横ヘ其通

砲兵材料

第百十八 砲ヲ釘塞スルニハ逆齒ヲ施シタル鋼鉄製ノ釘ヲ石或ハ野管用ノ斧ノ背面ヲ以テ之ヲ打込ニ其始メノ歐打ハ極メテ輕クスヘシ其釘悉ク徹入シ能ハサルニ至レハ側方ヨリ之ヲ折テ其剩余ヲ折ルヘシ

底装砲ヲシテ不用物タラシムルニハ成ルヘク其閉鎖ノ機關ノ一部ヲ除去シ之ヲ遠地ニ棄擲シ鐵鎚若クハ野管用ノ斧ノ背面ヲ以テ照準螺線及閉鎖器ヲ打毆シ或ハ鐵槌ヲ以テ之ヲ曲屈シ照尺ヲ破毀シ車

筐中ニ在ル預備器ヲ奪去シ或ハ破毀シ其轆木ヲ破毀ス

彈丸ハ水中ニ投シ彈藥車ハ若シ之ヲ能クスレハ火藥ト共ニ沈没セシム

著發信管ハ彈丸ノ破壊ヲシテ甚タ危殆ナラシムル者ニシテ若シ一彈丸ヲ地上ニ投スルカ或墜落スルヲアラハ甚タ危害ヲ發生スル者ナリ

携提武器

第百十九 小銃ハ裝填シテアラザルヲ保証セシ後チ其床尾ヲ破毀ス銃身ハ其端ヲ堅牢物ニ抵觸シテ之ヲ曲折ス又其銃式ニ由リテハ鷄頭ヲ破毀シ若シク

路ヲ壅塞スルヲアリ

砲兵材料

第百十八 砲ヲ釘塞スルニハ逆齒ヲ施シタル鋼鏡製ノ釘ヲ石或ハ野管用ノ斧ノ背面ヲ以テ之ヲ打込ニ其始メノ殴打ハ極メテ輕クスヘシ其釘悉ク徹入シ能ハサルニ至レハ側方ヨリ之ヲ折テ其剩余ヲ折ルヘシ

底装砲ヲシテ不用物ヲラシムルニハ成ルヘク其閉鎖ノ機關ノ一部ヲ除去シ之ヲ遠地ニ棄擲シ鐵鎚若クハ野管用ノ斧ノ背面ヲ以テ照準螺線及閉鎖器ヲ打毆シ或ハ鐵挺ヲ以テ之ヲ曲屈シ照尺ヲ破毀シ車

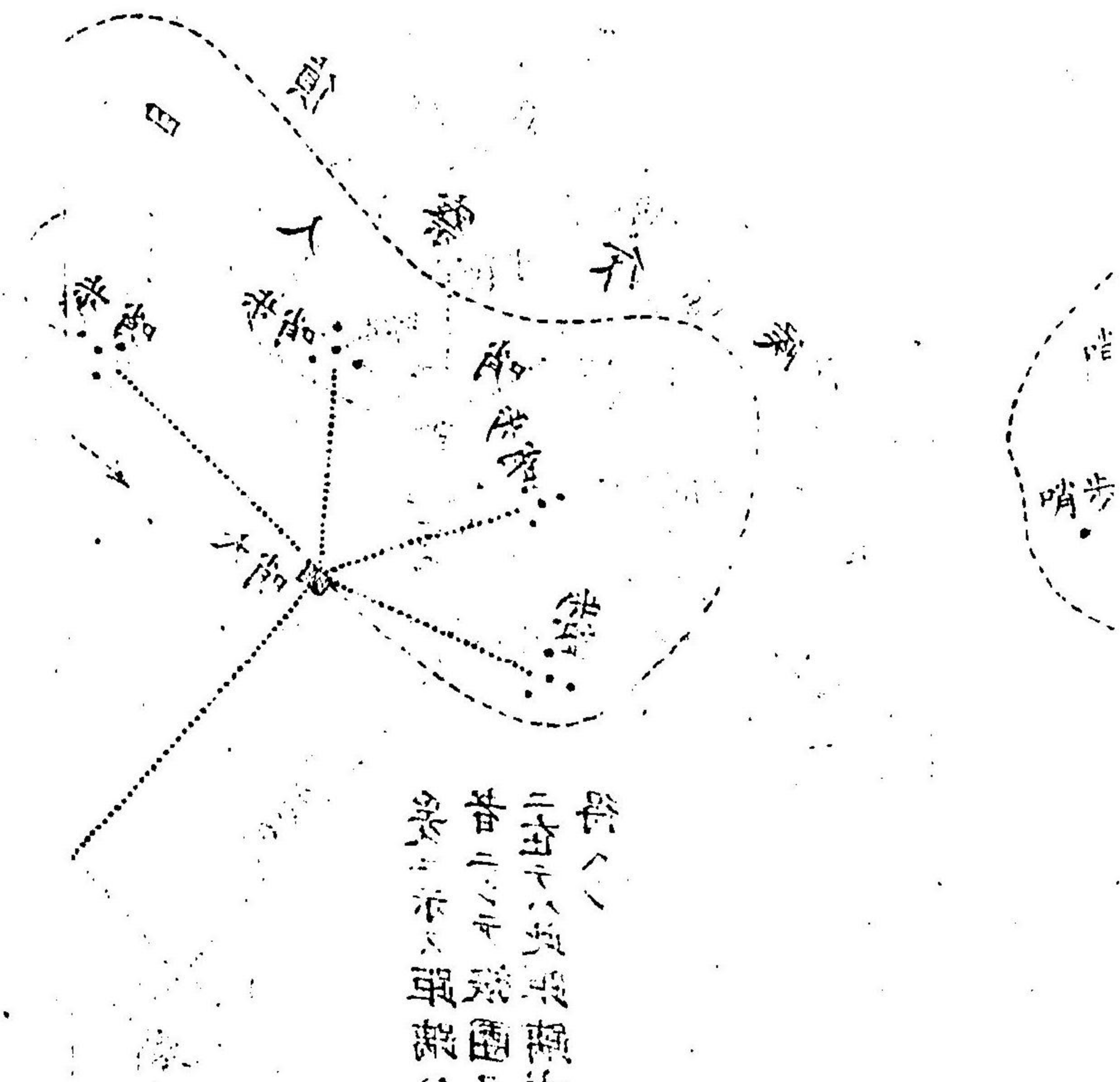
筐中ニ在ル預備器ヲ奪去シ或ハ破毀シ其轆木ヲ破毀ス

彈丸ハ水中ニ投シ彈藥車ハ若シ之ヲ触クスレハ火藥ト共ニ沈没セシム著發信管ハ彈丸ノ破壊ヲシテ甚タ危殆ナラシムル者ニシテ若シ一彈丸ヲ地上ニ投スルカ或墜落スルヲアラハ甚タ危害ヲ發生スル者ナリ

携提武器

第百十九 小銃ハ裝填シアラザルヲ保証セシ後チ其床尾ヲ破毀ス銃身ハ其端ヲ堅牢物ニ抵觸シテ之ヲ曲折ス又其銃式ニ由リテハ鷄頭ヲ破毀シ若シク

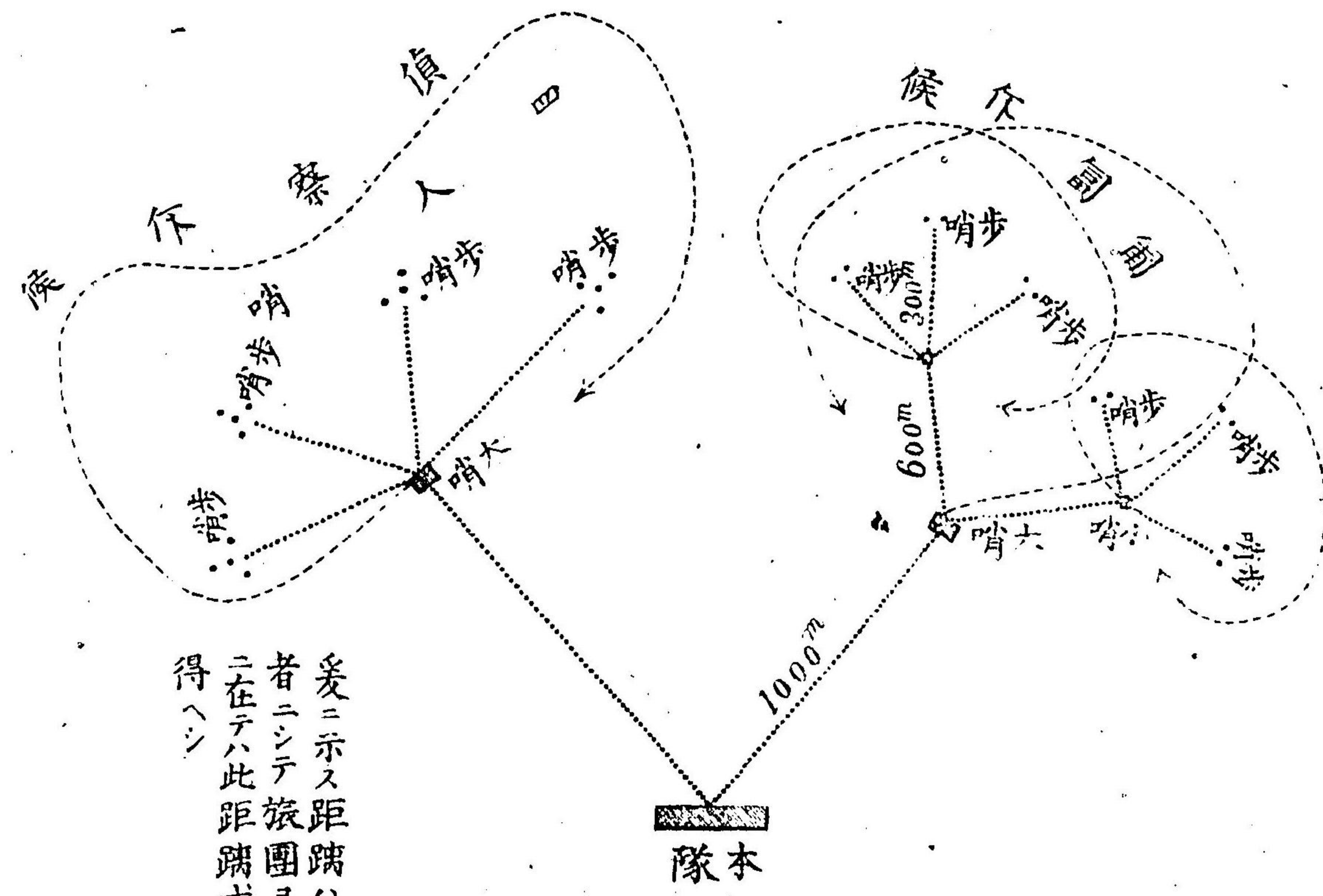
節前之類



此ノ如ク  
 刃ノ背ヲ  
 折リテ  
 破毀ス  
 此ノ如ク  
 刃ノ背ヲ  
 折リテ  
 破毀ス

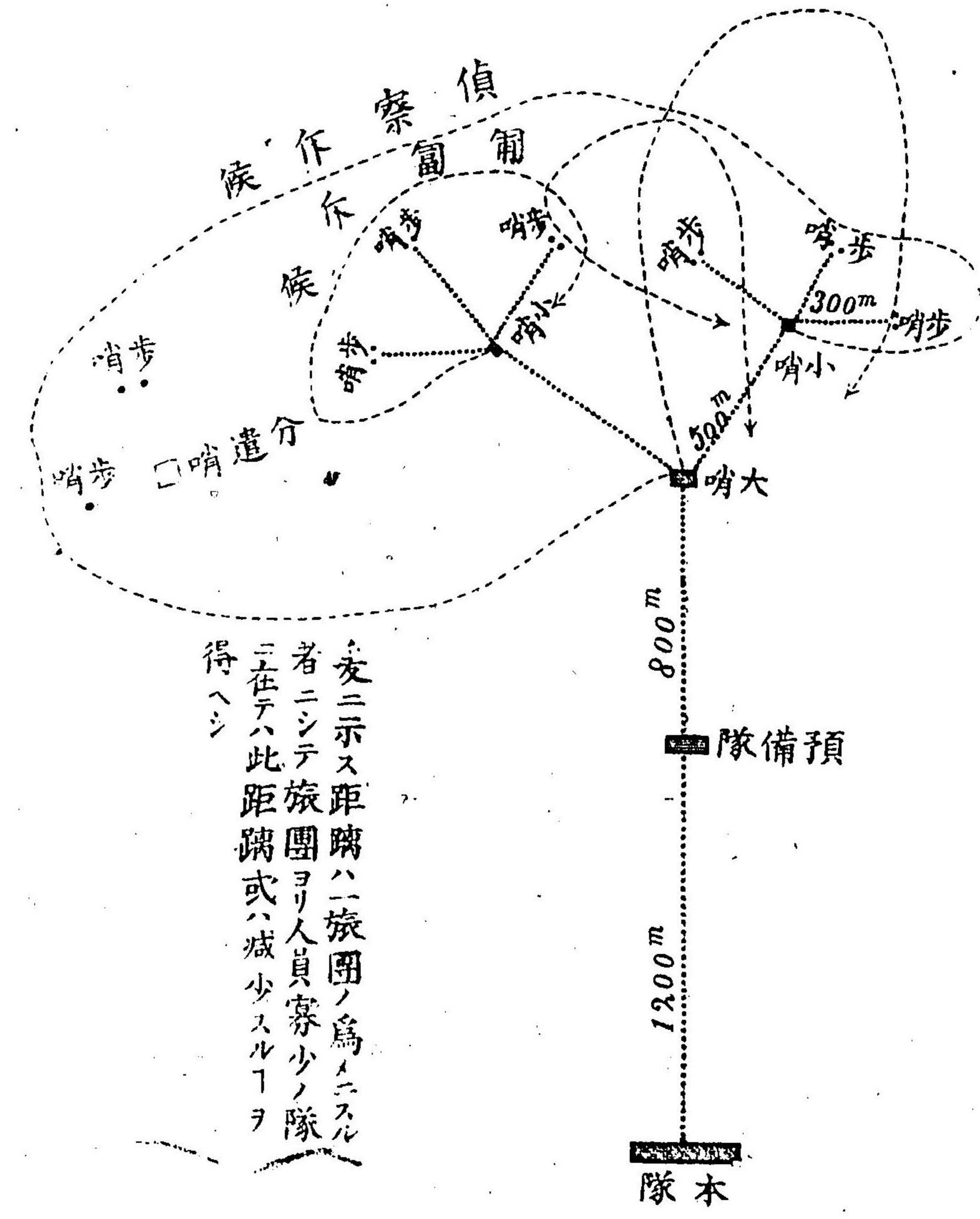
ハ遊底ヲ除去ス  
 短銃ハ解放シ其蜂窠ヲ棄擲ス  
 藥包ハ之ヲ沈没セシムルカ或ハ埋瘞ス  
 刀劔ノ身ハ之ヲ曲クルカ或ハ折斷ス  
 鎗ハ其柄ヲ折リテ破毀ス

哨前ルサセ賦配ヲ隊備預



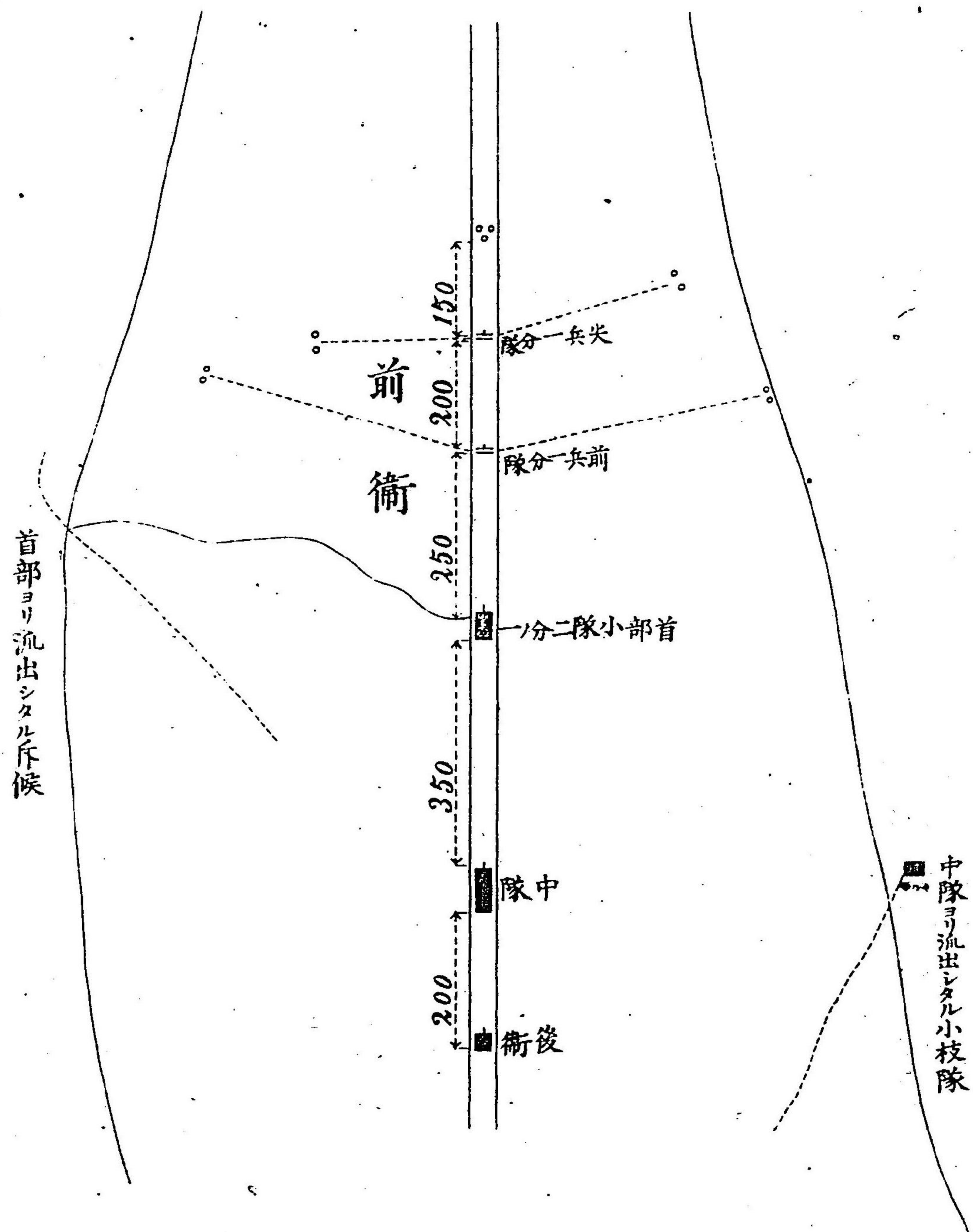
爰ニ示ス距離ハ二旅團ノ爲メニスル  
者ニシテ旅團ヨリ人員寡少ノ隊  
ニ在テハ此距離式ハ減少スルヲ  
得ヘシ

哨前ルタシ賦配ヲ隊備預



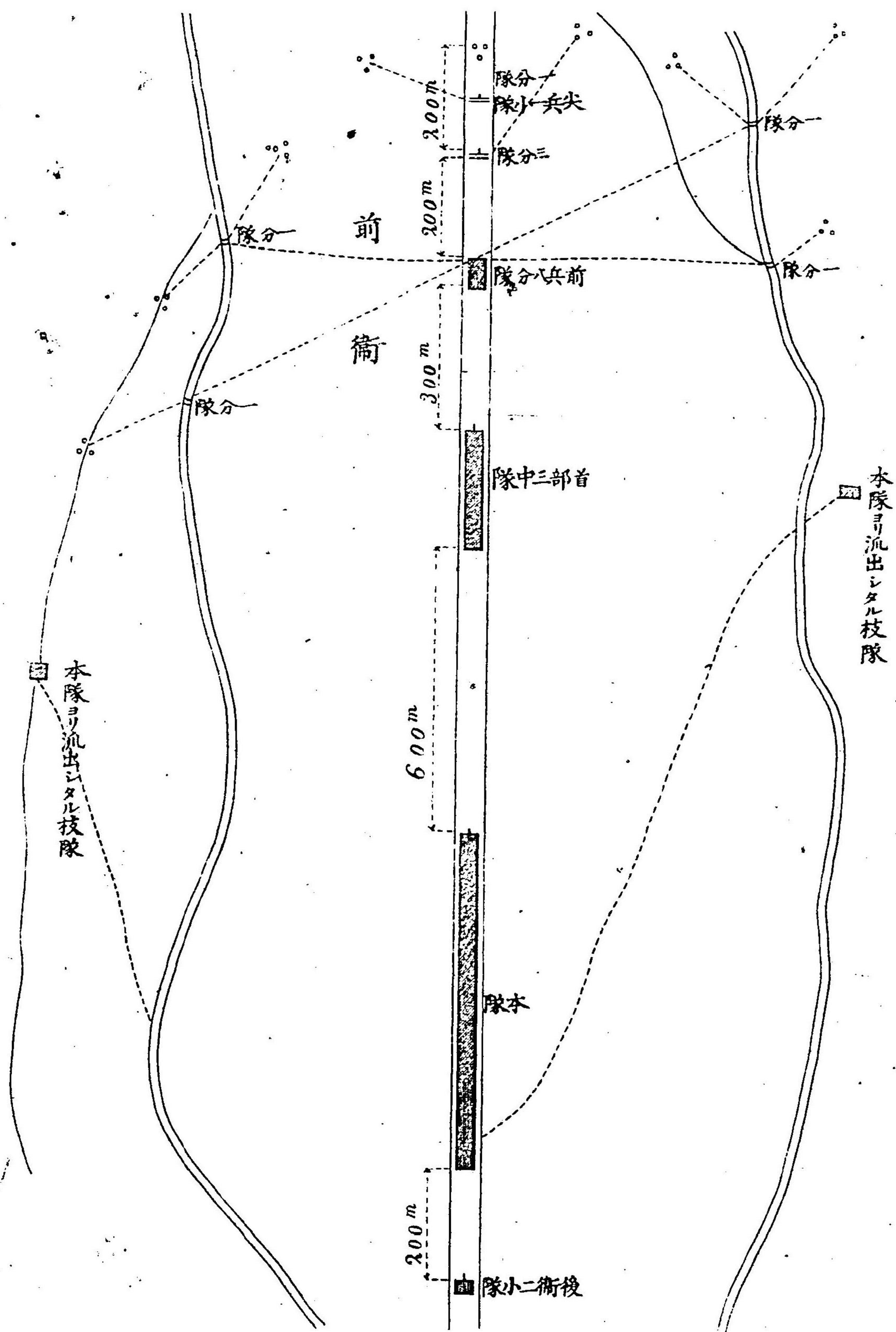
爰ニ示ス距離ハ二旅團ノ爲メニスル  
者ニシテ旅團ヨリ人員寡少ノ隊  
ニ在テハ此距離式ハ減少スルヲ  
得ヘシ

軍行ノ隊中

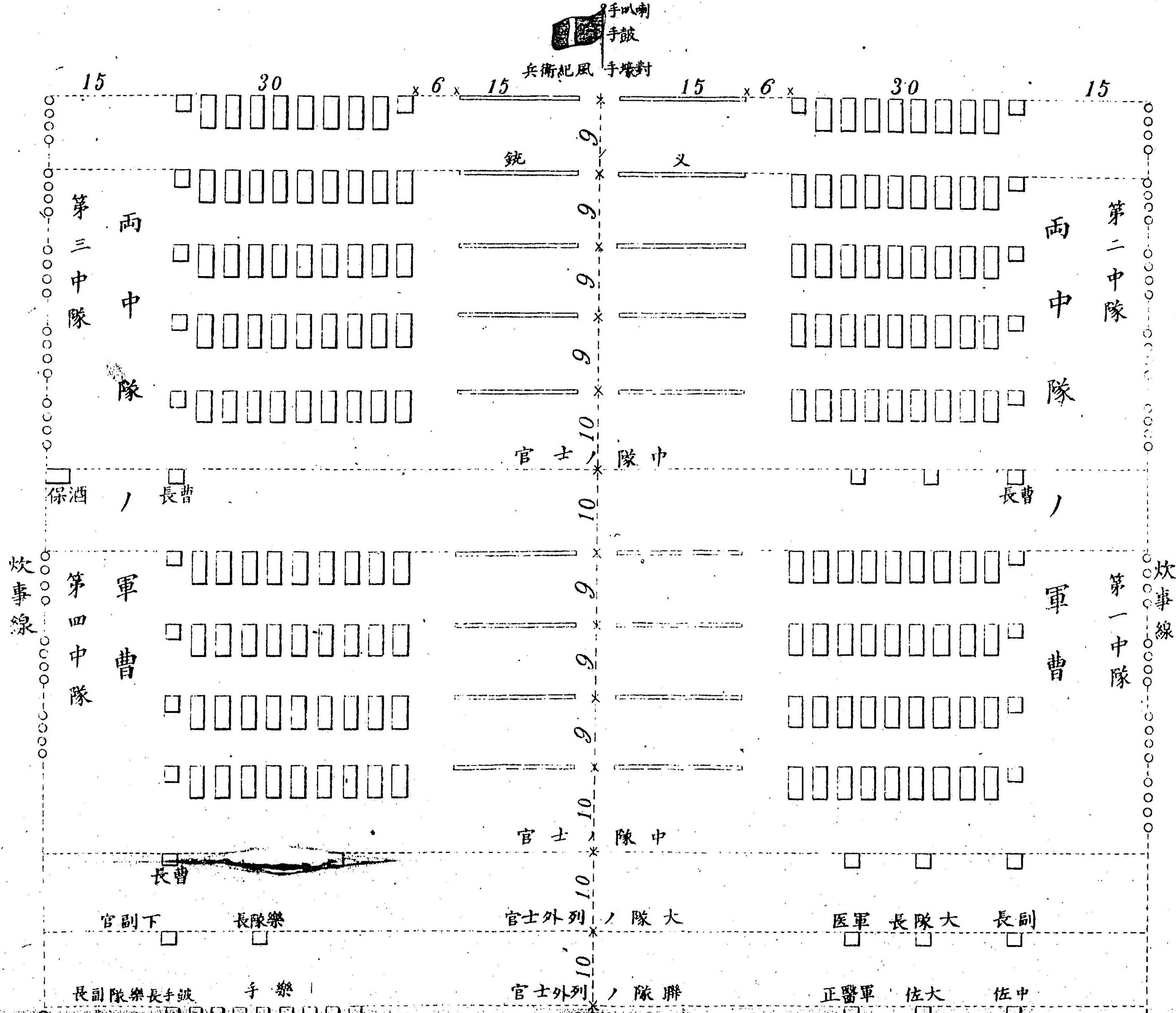




聯隊人行軍

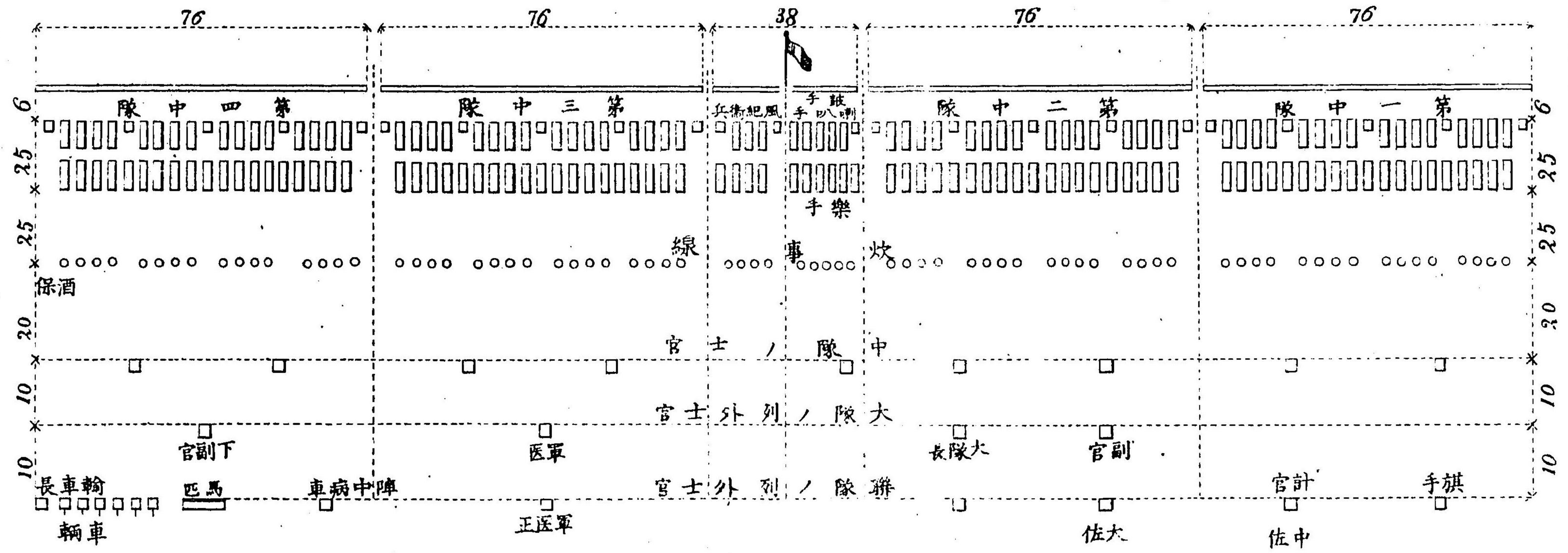


第一大隊隊形以テノ露營





# 第一大隊橫隊以テ露營



65  
142

明治九年九月廿七日 板權免許

明治十四年十一月五日 再版 定價金七十五錢

東京麻布區麻布市兵衛町壹丁目三番地

譯者兼  
出版人  
静岡縣士族  
酒井清

東京京橋區元數寄屋町二丁目四番地

發兌  
內外兵事新聞局

東 京 圖 書 館

函 一 四

門 新

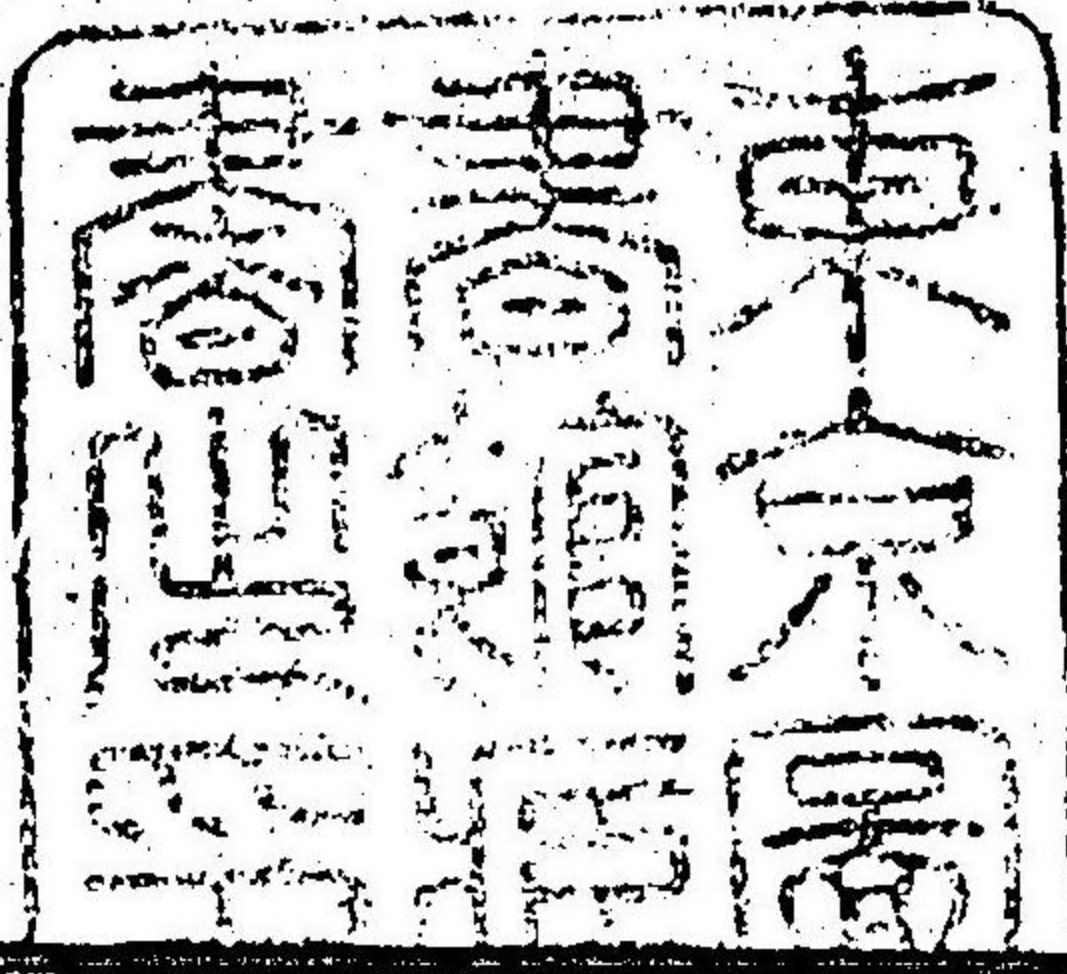
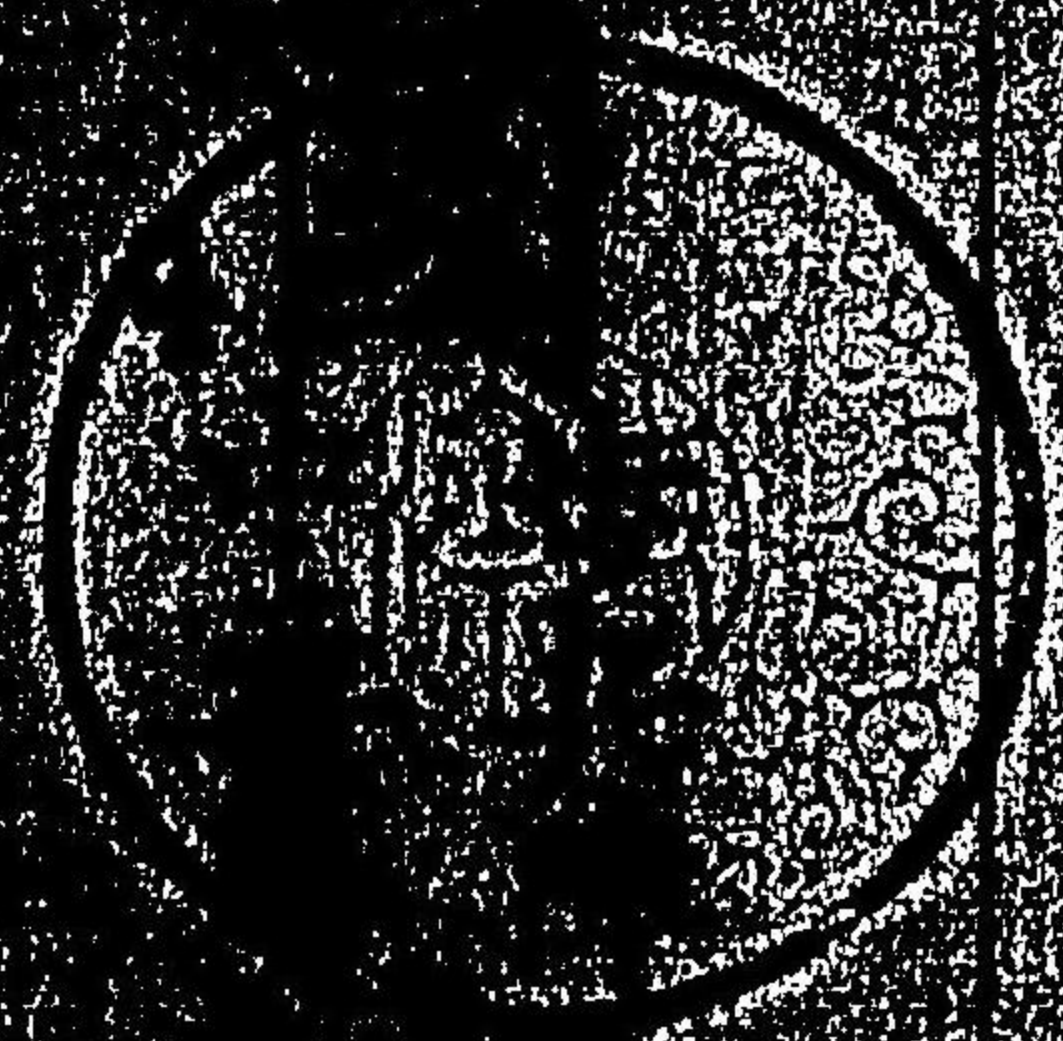
架 三

部 四

號

類

酒井清改譯



緒言

千八百三十二年五月三日發行ノ陣中軌典ハ歩  
兵陣中勤務ノ綱領ヲ概示シ簡易ニ軍術ノ定規  
ヲ記載スルニ過キサレカ故ニ之ヲ明瞭ニ了解  
シ得ルト又諸隊ヲシテ齊一ノ教習ヲ確實ナラ  
シムルニ方リ其緊要ナル細目條款ノ未タ盡  
ル所アルヲ以テ人々多少ノ智慮ヲ活用セサ  
ルヲ得サルナリ  
彼ノ軌典頒布ノ時ニ方テヤ初世帝國戰鬥ノ實  
驗ニ因テ其闕ヲ補ヒ以テ完全ノリト為セシカ

緒言